大学院論文集

第13号

KYORIN

杏林大学大学院国際協力研究科
2016年3月

目　　次

高橋　裕子：旧長崎唐通事が明治初期に果たした役割
—マリア・ルス号事件を通じて— …… 1

唐　　張熹：（研究ノート）*The Great Gatsby* をどう訳すのか
—英・日・中３ヵ国語におけるタイトルの変化 ……21

2014年秋学期・2015年春学期国際協力研究科修了者論文題目一覧 ……37

博士学位論文　内容の要旨および審査結果の要旨
車　　頴：中日通訳活動におけるリスクベース分析 ……39

杏林大学大学院国際協力研究科『大学院論文集』No. 13, 2016. 3

旧長崎唐通事が明治初期に果たした役割
―マリア・ルス号事件を通じて―

高橋　裕子

要　旨

旧長崎唐通事は幕末期にその終焉を迎えたあと、明治初期にどのような役割を果たしたのだろうか。まず長崎唐通事のルーツと成り立ち、唐語の学習方法、唐通事の職能など唐通事組織内のことを見ていき、そして、幕末期の唐通事組織内の変化から長崎唐通事の終焉までの変遷に目を向け、江戸時代に培われた唐通事の知識・経験が開国間もない明治初期の日本にとってどのような価値を持つものであったのか、また旧長崎唐通事が果たした役割について考察していった。

本稿では主に明治５年（1872 年）に起きたマリア･ルス号事件に関わった林道三郎･何幸五・平井希昌・鄭永寧の４名の旧長崎唐通事に焦点をあて考察していった。マリア・ルス号事件に関わった４名の唐通事は、事件発生当時、神奈川県庁もしくは外務省に出仕しており、マリア・ルス号事件の処理に当たるのは必然的である立場にあった。江戸時代には地役人にすぎなかった彼らがそのような高い地位に就くことが出来たのか。それは、長崎という地の特殊性、唐通事の職質、幕末期の唐通事内の変化に大別出来ると筆者は考える。

鎖国時代の日本において、長崎は生きた外国と接触できる唯一の地であった。黒船来航を機にやむをえず外国と交渉せざるを得なかった幕府、そしてその後政権を受け継いだ明治政府高官とは違い、唐通事は外国と接することが日常であった。また、唐通事は唐船貿易・唐人屋敷の管理などを全て仕切ることが仕事であり、彼らには語学力はもちろん外交・通商に関する知識、治安維持への対処力などが必要とされた。唐通事とは純粋に語学力を売り物にする存在ではなかったのである。また、幕末期の唐通事内の変化として英語学習を取り入れたことは大きく評価しなければならない。幕末期に長崎以外の地へ派遣された者、明治に入って中央で活躍した者は英語力により抜擢された者が多いからである。

旧長崎唐通事は江戸時代から連綿と受け継がれてきた外国への対処力（外交力・商業的能力など)､そして英語力･唐語力を武器に明治初期の日本外交を支えたのである。

キーワード：長崎唐通事　幕末　明治初期　通事通弁　マリア・ルス号事件

The role that the former Nagasaki To-tsuji achieved in early Meiji period
— Through the Maria Luz Incident —

ABSTRACT

After the former Nagasaki To-tsuji came to an end in the end of Edo period, what kind of role did they achieve in the early Meiji period? At first, I consider the origins of the Nagasaki To-tsuji and their history, a learning method of Tang language, the To-tsuji organization and I paid more attention to the change from the change in the To-tsuji's organization of end in Edo period to the end of the Nagasaki To-tsuji. What kind of value did the knowledge, the experience of To-tsuji cultivated in the Edo period have for Japan immediately after opening itself to the world in the early Meiji? What kind of role did they achieve in Japan?

This paper, I focused on four the former Nagasaki To-tsuji of Michisaburo Hayashi Kogo Ga, Masayuki (Kisyo) Hirai and Nagayasu (Einei) Tei, they handled the Maria Luz Incident (1872). At the time of the Maria Luz Incident, because they worked at Kanagawa prefectural or the Ministry of Foreign Affairs, it was necessity that they handled the Maria Luz Incident. They were only local officials in the Edo period. Why were they able to get such a high position? I think it can be roughly divided into three elements. They are particularity of Nagasaki, To-tsuji's occupation and the change of To-tsuji organization in the end of Edo period.

Nagasaki was the only place which could contact with living foreign country in Japan of national isolation era. Tokugawa Shogunate and high ranking government officials in Meiji have no choice negotiate with foreign countries when the Black Ships arrived in Japan. But It was daily life to contact with a foreign countries for To-tsuji. Because it was work that To-tsuji control all of the management of trade with China, the Tojin residence quarters, language skills as well as knowledge about diplomacy, the commerce, and maintenance of public peace were required to them. To-tsuji wasn't existence which sells language skills purely. Because the persons who send the places except Nagasaki by Tokugawa Shogunate in end of Edo period and the persons who played at active part at Central government in Meiji period were selected by their English skill, I think highly evaluate To-tsuji organization introduced an English learning in End of Edo period.

The former Nagasaki To-tsuji armed with language skills and handle foreign countries inherited from the Edo period, they supported Japanese diplomacy in early Meiji priod.

Key words

Nagasaki To-tsuji, the end of Edo period, the early Meiji period,
tuji-tuben (interpreter) the Maria Luz Incident

はじめに

江戸時代、長崎には唐通事という唐語（中国語）の通訳集団がいた。彼らは単に通訳・翻訳に従事していただけではなく、唐船貿易の実務に関わり大きな権限を持っており、鎖国政策をとっていた当時の日本に世界情勢に関する情報をもたらす貴重な存在であった。　しかし、幕末から国際情勢は大きく変化し、日本にもその波が押し寄せた。欧米各国の船が開国と通商を求めて日本に来航するようになり、幕府は従来の鎖国政策の転換を余儀なくされる。そして、唐通事の在り方にも変化を迫られるようになり、唐通事組織を離れ開国港に派遣される唐通事も現れるようになる。幕末の混乱期の中、長崎唐通事はその終焉を迎え明治の新時代を生きていくことになる。

そのような激動の時代に、旧長崎唐通事は江戸時代に長年培ってきた唐通事としての言語的センスや貿易・外交的ノウハウをどのように活かしていったのか。彼らは明治初期の日本においてどのような役割を求められていたのか。それらのことを、幕末から明治初期における唐通事の動向を見るとともに、本稿では主に明治５年（1872）に起きたマリア・ルス号事件に関わった林道三郎・何幸五・平井希昌・鄭永寧に焦点をあて考察していく。

Ⅰ　長崎唐通事について

１．長崎唐通事のルーツと成り立ち

唐通事は長崎以外にも置かれていたが、本稿では長崎唐通事に焦点をあてて考察していく。

唐通事となったのは明朝末期の戦禍を避け、長崎を中心とする九州にやってきた唐人とその子孫であり、唐通事のほとんどは彼らのような唐人であった。しかし、唐人であれば誰もが唐通事になれたわけではない。朱（2004）が「唐通事は、幕府の地役人として、唐人および対中貿易を監督、管理する代理人である役職の故に、最も求められている能力としては、中国語の語学力であり、また、幅広い文化的蘊蓄であった。」[1] と述べているように、唐通事となるにはその任に応えられるだけの日中双方の語学力と文化的素養を備えていなければならなかった。

幕末以前の唐通事について、許（2012）が「長崎奉行支配下の地役人の一環でありながらも、従来外国関係の実務を担当し、対外交渉において重要な役割を果たしてきたため、ほかの地役系統の職と比べてはるかに重視されており、特別に優遇されていた。」[2] と述べているように、中国にルーツをもつ長崎唐通事は、江戸時代の日本にお

---

[1] 朱全安（2004）「深見玄岱について：近世日本における中国語の受容に関する一考察」千葉商大紀要 41(4), p78
http://ci.nii.ac.jp/els/110004631743.pdf?id=ART0007344477&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1400551957&cp=　（2014 年 5 月 20 日閲覧）

[2] 許海華（2012）「幕末における長崎唐通事の体制」東アジア文化交渉研究 5,p276

いて唯一の国際都市といえる長崎で唐船貿易に従事し、華僑社会にも影響力を持つ一種の知識人であったといえる。

２．唐語の学習方法

唐通事が使用した唐語は、南京口・福州口・漳州口の３方言であった。　その中での貿易実務でよく使われていたのは南京口である。唐通事の家に生まれた子弟は乳児の頃から父親から唐語の訓練を受けた。では具体的にどのように習得していったのか。

六角と武藤[3]によると「『三字経』・『大学』・『論語』・『孟子』・『詩経』などを使用して、これらの書籍を唐音で読み、それによって発音を習得していく。この発音段階がおわると２字ないし３字からなる単語あるいはフレーズを学んで、それらの発音を正しくおぼえると同時に、それらのことばの意味をも記憶していく。そして、さらに４字以上からなる長短話を学習する。この段階がおわると、まとまった内容のある『訳家必備』４冊、『養児子』１冊、『三折肱』１冊、『医家摘要』１冊、『二才子』２冊、『瓊浦佳話』４冊などを読んだ。これらの教科書はいずれも中級の読物で、唐通事が編集したものである。　この中級段階の次は、『今古奇観』、『三国志』、『水滸伝』、『西廂記』といった口語小説類を読む上級段階へ進む。次には、『福恵全書』（33巻、清の黄六鴻撰地方施政者の心得るべき諸件を集めて説いたもの）、『資治新書』（初集14巻、二集20巻清の李漁撰による職官志）、そして『紅楼夢』、『金瓶梅』などを自習して不明の部分を先生に質すことになっていた。」

このように長崎唐通事は初めの段階では職務とは直接関係がない単語･表現を学び、唐語のレベルがある程度のレベルに達した段階で唐通事としての実用的な唐語を習得していった。教材の中には『三国志』、『水滸伝』といった有名な小説も含まれており、小説を通じて自然な口語や中国の文化も学んでいったのであろう。

３．唐通事の職能について

唐通事とは言っても単に通訳・翻訳業務をしていたのではない。彼らは語学力と幅広い教養、貿易実務の知識を駆使して、主に唐船貿易に関する仕事を行っていた。唐通事の職務について喜多田（2010）は「職務としては貿易実務だけにと止まらず、唐人屋敷の管理を始め、来航唐船の菩薩上げ、寄進、来航唐人が参加する祭祀行事など生活全般に関わることと職務の一つとしていた。」[4]と述べ、許（2012）は「その職掌は、単に通商・外交の現場で通弁翻訳にとどまらず、唐船貿易の裁量から唐人・唐館の管理統制、主に対中国を中心とする外交文書の作成、海外情報の収集などの実務に

---

[3] 六角恒廣（1981）「唐通事と唐話教育」『早稲田商学』292 p 98-99, 武藤長平（1978）『西南文運史論』同朋社（大正15年刊の複製）p51-52　より筆者が要約。

[4] 喜多田久仁彦（2010）「唐通事の職掌について ―《譯家必備》から見る職務の一端」京都外国語大学研究論叢（76）, p173

当たり、換言すれば商務官･外交顧問的性格を有するとされている。」[5] と述べている。

1715 年に、貿易許可証を持つ来航唐船しか貿易を許可しない正徳新例が実施された。その貿易許可証を「信牌」と呼んだ。よって､1715 年以降の唐船貿易には「信牌」が重要になるが、その信牌を発行する権限を持っていたのは唐通事である。江戸中期以降の唐通事は、唐船貿易とその実務に対してより大きな権力を有するようになったといえるだろう。またこのことからも、唐通事は単なる通訳官ではなかったことが分かる。

唐通事組織内には本通事と内通事があり、本通事は上記のような業務を担い、内通事は貿易上の翻訳をするのではなく、荷役に加わり物品の運搬の手伝い、船の修理など唐人の雑用処理を担っていた。また本通事は唐通事の家系の者、つまり唐人の子孫が就き、内通事は主に日本人で構成させていた。本通事には、寛永 18 年（1641）に大通事 4 名、小通事 5 名から構成される唐通事九家が設けられたが、時が経つにつれて様々な職階が設けられ細分化されていった。それは、唐通事の員数膨張[6] や地役人としての家系・権威と守ると同時に収入と確保するため[7] であったと思われる。

Ⅱ　幕末から明治初期における長崎唐通事

1．幕末における唐通事の変化

19 世紀半ばに入り、日本にロシアやアメリカが来航し、国際情勢が変化していく中で唐通事の職制や在り方にも変化を迫られるようになる。許（2012）は慶応年間の唐通事内の変化として、唐通事の新名門と有力通事の出現、また特別人事で通事組織を離脱する唐通事が現れたことについても論じている。[8] 許（2012）によると、慶応年間以前の安政年間から従来全く大通事を出した経歴のない家筋ものが大通事に昇任する例が見られ、安政年間に唐通事の新名門が芽生えたという。[9] 有力通事の一例として許（2012）は、鄭幹輔を挙げている。鄭は、大通事という上層役職に就き、唐通事の満洲語研究事業を担当し、また英語兼修を積極的に提唱した人物である。[10] この鄭により、唐通事内から幕末から明治初期の日本の外交を支える人物が多数輩出されることになる。

次に通事組織を離脱した唐通事について見てみる。文久 3 年（1863）7 月 6 日に小通事過人平井義十郎（のちの希昌（ゆきまさ）)、何礼之助（のちの礼之（のりゆき））が特別人事で「長崎奉

---

[5] 許海華（2012）「幕末における長崎唐通事の体制」東アジア文化交渉研究 5, p267
（許は中村質「近世の日本華僑 ―鎖国と華僑社会の変容―」福岡ユネスコ協会編『九州文化論集 2　外来文化と九州』平凡社 1973 p133-277，林陸朗「長崎唐通事の職制と株役」林陸朗先生還暦記念会編『近世国家の支配構造』雄山閣 1986 p3-44 を参考としている）
[6] 許（2012）p267-268
[7] 喜多田久仁彦（2002）「唐通事の危機意識について」『京都外国語大学研究論叢』60　p146
[8] 許（2012）p273-276
[9] 許（2012）p273
[10] 長崎県教育会編（1919）『長崎県人物伝』p719

行支配定役格」に任命され[11]、同じ年に小通事末席太田源三郎が江戸で「神奈川奉行支配定役格」に抜擢された。平井、何、太田の３名は英語を学習していた。『神奈川奉行所職員録』に収録されている万延元年 12 月から文久元年廩秋（1861）の記録[12]には、唐通詞[13]として呉碩三郎、太田源三郎、中山玄三の３名の名が、記されている。よって、少なくとも万延元年 12 月（1861）には、長崎を離れ神奈川で活躍した唐通事がいたことになる。

幕末において唐通事に新たに求められた能力が英語力であった。幕末に英語学習をするために設けられた場所として、英語伝習所・語学所がある。文久２年（1862）に英語稽古所と改称。その翌年文久３年（1863）７月に唐通事である何礼之助と平井義十郎が学頭となった。慶応元年（1865）８月済美館と改称され、そこで英語を教えた唐通事として、何礼之助・平井義十郎・柳屋謙太郎等がいる。[14]特に何礼之は、鄭幹輔と並んで唐通事内における英語教育の先駆者と言ってもよく、例えば文久元年（1860）にロシア軍艦対馬占領事件が起きた時は撤退交渉にあたる通訳として長崎奉行から随行を命じられるなど、幕末から清国以外との対外交渉に多く関わっていた。何の場合、英語力による抜擢といってもよく、幕末においては唐語に加えて英語力も重視されていたことが分かる。何は 10 代の頃から積極的に英語を学習し、長崎奉行にも英語の重要性や唐通事の在り方について意見書を出していた。[15]これから外国と渡り合っていくためには従来の唐通事の知識や教養だけでは不十分であると実感していたことの表れといえるだろう。そして、鄭幹輔や何礼之に師事し英語学習を始めた唐通事たちも、これからの時代は英語が必要不可欠となってくること、また日々目まぐるしく変化し複雑になっていく国際情勢を理解していかなければ自分たちは生き残れないと肌で感じていたのではないだろうか。

２．長崎唐通事の廃止

六角（1981）は長崎唐通事の終焉について「翌慶応４年正月幕府の長崎支配が終るのにともなって長崎会所は消滅した。この長崎会所の運命とともに長崎唐通事も解体したといえよう。」[16]と述べている。また許（2012）は「唐通事集団が唐船貿易をはじめとする業務を独占する立場を完全に失い、組織内の人事権も長崎奉行に返上せざ

---

[11] 許（2012）p275（許は「（平井希昌）履歴書」『平井希昌（義十郎）林道三郎 橋本雄造ほか履歴および伝記』長崎歴史文化博物館福田文庫 資料番号：福田 13-172,「公私日録」2（「何礼之文書」1 東京大学社会科学研究所資料室 フィルム番号：586）を参考としている）

[12] 横浜郷土研究会編『神奈川奉行所職員録』（1997）に収録されている「港の礎」（万延元年 12 月）、「金川司鑑」（万延２年正月）、「黄金花」（文久元年８月）、「太平餘楽」（文久元年廩秋）より

[13] 原文の記載が唐通事ではなく唐通詞となっている。

[14] 六角（1981）p107

[15] 大久保利謙（1986）「幕末英学史における何礼之 ―とくに何礼之塾と鹿児島英学の交流 ―」 大久保利謙歴史著作集５『幕末維新の洋学』吉川弘文館 p349

[16] 六角（1981）p108

るを得なくなったのである……慶応３年７月の（長崎奉行所での地役人を対象をする）改革が長崎唐通事の既存体制の終点となったであろう。」[17] としている。

六角と許では何を以て唐通事の終焉とするかという基準が異なるが、慶応３年から４年頃（1876 頃）に江戸幕府の終焉とほぼ時を同じくして長崎唐通事もその終焉を迎えたのである。

３．明治初期の唐語と旧長崎唐通事

旧長崎唐通事が使用していた中国語とは、主に南京語であった。1871 年に外務省は通弁を養成する漢語学所を成立。当初は南京語が教えられていたが、1876 年９月に北京語に転換することになり、1880 年に南京語学習は廃止された。[18] ここで、唐通事消滅後も受け継がれてきた唐通事としての唐語は終焉を迎えたのである。

一方、幕末最末期に唐通事であったものについての動向については、許（2012）が明治元年（1868）の『長崎府職員禄』に注目し、明治維新直後に多くの唐通事出身者が長崎府職員に採用されたことが明らかにされている。[19] やがて、林道三郎、何幸五、平井希昌、鄭永寧などをはじめとして、明治新政府に登用される旧長崎唐通事が多数現れる。

添田（2009）は「〈開港場行政〉[20] を長崎地役人という視覚で切り取ってみると、長崎から大阪・神戸そして上海まで、近世長崎で活躍していた国際関係の実務担当者が、新政府のもとで広範囲に活躍していたことが分かる。彼らに求められた能力が、単に通訳・翻訳官としてのそれではなく、「鎖国」貿易体制のもとで培われた国際関係の実務能力全般、ならびに指導力であった……　」[21] と述べている。つまり、長崎という地の特殊性が明治政府や開港地の各機関で働くことができるだけの実力を兼ね備えた人材を生み出したのである。長崎唐通事が廃止されて明治政府の世になっても、特に明治初期においては長崎で連綿と受け継がれてきた長崎地役人が有する対外交渉能力が必要とされたのである。そして、彼らの能力と経験を必要としていたのは長崎や開港地だけでなく、明治政府にとっても欠かせないものであった。幕末から日本は欧米各国に人を派遣し国際的に通用する人材を養成し始めたが、養成するにはある程度の時間がかかる。海外に派遣した人材が日本で実際に対外交渉実務が出来るようになるまでは、崎人に頼らざるを得なかったのだろう。

---

[17] 許（2012）p276-277
[18] 六角（1981） p 474-475
[19] 許（2012） p 277-279
[20] 添田仁（2009）は「〈開港場行政〉の形成と長崎」大阪歴史学会『ヒストリア』第 218 号の中で、維新期において、開港場の国際関係にかかわる事案に統一的に対処するために、近世以来のノウハウを取り込みながら、個々の開港場を単位とする行政の枠組を越えて横断的に展開した連携システムを〈開港場行政〉と呼んでいる。P164
[21] 添田（2009）p172

そして1872年（明治5年）、横浜港で日本が未だかつて経験したことのない国際的大事件が起こる。マリア・ルス号事件である。この事件の解決過程などに4名の旧長崎唐通事が関わっている。長崎唐通事解体後、明治という新しい世で旧長崎唐通事はどのような役割を担っていくことになったのだろうか。それを次章からマリア・ルス号事件を通じて考察していく。

Ⅲ　マリア・ルス号事件とは何か

1．マリア・ルス号事件の概要

1872年7月9日、ペルー船マリア・ルス号はマカオからペルーに向かう途中悪天候に遭い、船の修理のため横浜に入港した。船内には230名余りの清国人が乗船していた。入港の数日後、マリア・ルス号に乗船していた木慶という清国人が船内での虐待を苦にして海に飛び込み、イギリス軍艦アイアン・デューク号に救助された。これがきっかけとなり、マリア・ルス号は移民船ではなく奴隷貿易船であることが発覚。ペルー、日本、イギリス、アメリカなどの国を巻き込む国際的事件へと発展し、大江卓を裁判長としてマリア・ルス号事件の裁判が行われることになった。事件の経過については以下の年表を参照とされたい。

《マリア・ルス号事件の概略年表》[22]

1872年6月4日 8日 26日	マリア・ルス号、横浜入港 木慶がイギリス船に救助される。 イギリス、アメリカ代理公使が政府に処罰を要求
7月1日 4～21日 23日 26日 27日	陸奥宗光が神奈川権令を退任、新たに大江卓が就任し裁判を担当 第一次裁判開始。船長と船客を検問。 「吟味目安書」（判決申渡書）が作成され各国領事に送付される。 各国領事が協議 第一次裁判判決言い渡し
8月1日 16～21日 24日 25日	清国人たちに対する契約履行請求訴訟おきる。 第二次裁判開始。 陳福勲を代表とする清国使節が神戸に到着 第二次裁判判決言い渡し[23]
9月17日 27日	「人身売買禁止令」公布 清国人たち帰国
1873年6月29日	ペルー政府の抗議により事件をロシア国皇帝の裁決に一任する（第三次裁判）
1874年6月	榎本武揚が特命全権大使としてロシアに派遣される。
1875年5月29日	ロシア皇帝の裁決が下る。日本側の勝訴。

[22] 石橋正子編著『マリア・ルス号事件関連資料集』（2008）p12～16を参考に筆者が作成
[23] 石橋（2008）によると、第二次裁判判決言い渡しは9月25日となっているが、『大日本外交文書』と照らし合わせ森田（2005）に従った。

２．マリア・ルス号事件発生当時の日本

明治初期の日本は幕末に結んだ条約の改正がまだ進んでおらす、諸外国に領事裁判権もしくは治外法権を与えたままであった。更には日本側と諸外国との間で条約において譲渡された権利は領事裁判権なのか治外法権なのかという認識も曖昧であり、諸外国との間で様々な食い違いがあったと思われる。

また 1867 年に老中小笠原壱岐守と条約諸国の公使たちによって協定された文書の中には、以下のような居留地取締規則 4 条と呼ばれるものがある。

> 右居留地或者神奈川港内尓居住せる支那人及ひ他の條々條約を取結者さる臣民の刑法及ひ取結盤神奈川奉行右世話人の評議并輔と外國コンシユルより得へき評議とを以て之を取行ふへし。[24]

つまり「条約未済国人に関する裁判は、外国人取締役や外国領事に相談しながら神奈川奉行が裁断する体制が定められていた。」[25] まさに、当時の日本とペルーの間には条約が締結されておらず、日本にとってペルーは条約未済国であった。また、1871 年 7 月に日清修好条規が調印されたが、マリア・ルス号事件発生当時はまだ批准書が交換されていなかったため、清国人も条約未済国人として扱われた。よって、マリア・ルス号事件の第 1 の裁判開始直後、日本側は各国領事に裁判に関することを相談しなかったため、居留地取締規則 4 条に違反するとして抗議されたのであった。当時の日本にはこの規則がまだ適応される状況にあり、条約未済国人であっても日本側が裁くにあたって各国領事に助言を求めなければならなかったのである。

また、マリア・ルス号事件は開国してからわずか 5 年、廃藩置県の翌年に起きた事件であり、明治新政府が新しい政策を推し進めるも三権の分立がない（司法の独立がない）[26] など、依然として江戸時代の名残が政治面でも見られる時代であった。

また尾佐竹猛（1956）が「（マリア・ルス号の）乗客の権利を保護するは即ち奴隷売買を禁ずるにあるのをしらなかったのである。」[27] と述べているように、当時の日本は奴隷売買に関する国際的動向や人権問題を理解していなかった。よって、マリア・ルス号事件の裁判を行うにあたり、日本は国内の旧弊と人権問題への理解の欠如に直面することになったのである。

３．日中双方におけるマリア・ルス号事件がもつ意義

『华工出国史料汇编』には“中国官员到日本国之第一次”（中国人官吏が日本へ赴く

---

[24] 通信全覧編集委員会編『続通信全覧　類輯之部　19　地処門』p734
[25] 森田朋子（2005）『開国と治外法権 ― 領事裁判制度の運用とマリア・ルス号事件』吉川弘文館 p158
[26] 武田八洲満（1981）『マリア・ルス号事件 ― 大江卓と奴隷解放 ―』有隣堂 p27
[27] 尾佐竹猛（1956）「『白露国馬厘亜老士船裁判略記』解題」明治文化研究会編『明治文化全集』第 11 巻 日本評論新社

のは初めてである）[28]という記述が数か所ある。マリア・ルス号事件の発生により、日清修好条規締結の翌年に偶然とはいえ初めて正式に中国官吏が来日したのである。

一方日本国内におけるマリア・ルス号がもたらした影響はというと、居留地規則第4条の改正と芸娼妓解放令の成立であると多くの先行研究で指摘されている。しかし、森田（2005）のようにこの通説に異をとなえる説もあり[29]、断定することは難しい。このような国内外の様々な事情や思惑が複雑に絡み合った事件に4名の旧長崎唐通事は関わっていくことになる。

Ⅳ　マリア・ルス号事件と旧長崎唐通事

1．マリア・ルス号事件に関わった旧長崎唐通事たち

マリア・ルス号事件の解決過程と事後処理には4名の旧唐通事が関わっている。その4名とは林道三郎、何幸五、平井希昌、鄭永寧である。[30]彼ら4名はどのような経歴の持ち主なのか。マリア・ルス号事件以前の経歴をここで簡単に紹介する。

林道三郎は天保13年（1842）生まれ。安政6年（1859）稽古通事の職に就いた。その後、小通事末席、小通事並を経て慶応2年（1866）小通事助に昇格。慶応3年（1867）には神奈川へ出張を命じられている。明治に入り神奈川県庁に出仕し、明治元年（1868）には神奈川県通弁関、同県属司補通弁官、明治2年（1867）神奈川県権大属、明治4年（1871）神奈川県大属准席、同県二等訳官に任ぜられる。

何幸五は天保14年（1843）生まれ。実兄は何礼之である。嘉永5年（1852）稽古通事となり、小通事末席、湊会所掛手伝を経て、元治元年（1864）に横浜在勤を命じられ、その翌日小通事並上席に昇格。明治に入ってから、長崎県庁で上等通弁役や長崎県少属を務めたあと、明治4年（1871）に神奈川県庁への出仕を命じられ、神奈川県二等訳官に任ぜられた。

平井希昌は天保10年（1839）生まれ。嘉永5年（1852）唐稽古通事見習となり、小通事末席、小通事助過人、小通事助格、長崎奉行支配定役格、済美館の学頭を経て江戸最末期の慶応3年（1867）には長崎奉行支配調役並格となり、通弁御用頭取に昇進。明治になって長崎裁判所に出仕し通弁役頭取、外国管事役所掛兼裁判所弁務を経て、明治3年（1870）になると東京に呼び出され、外国交渉公文書翻訳などに従事。明治4年（1871）4月に文書権正になり、8月に外務大録に任ぜられ翻訳課勤務を申付けられ、9月には外務少記になった。

鄭永寧は文政12年（1829）生まれ。鄭幹輔の養子となる。安政7年（1860）鄭幹輔の名跡を継ぎ小通事末席より小通事過人に昇格。文久元年（1861）小通事助に昇格した。明治元年（1868）には飜譯方、明治2年（1869）には外国官一等訳司、そして

---

[28] 陈翰笙主编（1985）『华工出国史料汇编』第一辑第三册 中华书局　（　）部分の日本語は筆者訳
[29] 森田（2005）ｐ246、ｐ252～253
[30] 許海華（2013）「旧長崎唐通事与瑪也西号事件処理始末」王卫平编著《近代中国的社会保障与区域社会》

大訳司になった。明治３年（1870）には文書権正に任ぜられ、外務大丞柳原前光に随行して清国に行っている。明治４年（1871）には入清議約使参判を仰せ付けられ、欽差全権大臣伊達宗城に大丞柳原前光と共に随行して再び清国渡った。そして明治５年（1872）には外務少記に任じられ、３度目の清国出張に赴いた。天津よりの帰途に上海に滞留し、品川忠道領事が帰国している間、留守代理を命じられた。マリア・ルス号事件が起きたとき、鄭は清国に滞在中であった。

マリア・ルス号事件発生当時、林道三郎は神奈川県権典事であったが、6 月 26 日に１等訳官兼任を命じられ、7 月 26 日には兼任を解かれ、典事に任じられている。同じく神奈川県庁に出仕していた何幸五も林とほぼ時を同じくして 6 月 25 日に２等訳官から１等訳官へ昇格している。林のこの慌ただしい任命と何の昇格にはマリア・ルス号事件が関係しているとみてよいだろう。

林、何、鄭、平井の経歴を見てみると分かるように、マリア・ルス号事件が起きた明治５年（1872）当時、彼らは神奈川県庁もしくは外務省の職員であったため、横浜で起きた外国船籍の事件に関わることは必然的なことであった。また『長崎県人物伝』には、「幼にして支那語を長兄泰蔵に英語を幹輔に學び、夙に濟輩を抜く」[31]（鄭）「支那語及び英語に巧なり」（林）[32]「幸五幼にして支那語及び英語を學び練達の稱あり」（何）[33]「支那語に精通し兼て英語に巧にして佛語を解す」（平井）[34] とあり、４名とも唐語以外にレベルのほどは分からないが英語や平井についてはフランス語にも通じていたことが分かる。『長崎県人物伝』の鄭幹輔の項には

> 維新後唐通事及びその子孫が外國語を以て政府に出仕するもの多く明治初年の外交は殆んど崎人の手に握れるの觀あり、皆幹輔の指導に依る、平井希昌、呉來安、潁川君平、柳谷健太郎、何幸五、盧高朗等は其嚢籥に出づ。[35]

とある。鄭永寧の養父は鄭幹輔であり、何幸五の実兄は何礼之である。４名の身近なところに英語の必要性を感じ唐通事組織の中に英語学習を取り入れ、自身も英語を学んでいた人物がいた。よって彼らは少年期から青年期にかけて、英語に触れる機会が大いにあったことになり、恵まれた環境にあったといえる。

２．旧長崎唐通事たちが事件解決過程において果たした役割

マリア・ルス号事件の顛末を記録したものに「白露国馬厘亜老士船裁判略記」（以

---

[31] 長崎県教育会編（1919）『長崎県人物伝』p723
[32] 同上　p729
[33] 同上　p732
[34] 同上　p854
[35] 同上　p719

下「略記」）がある。これはアメリカ人ジョージ・ワルレス・ヒル（以下ヒル）が執筆し、林道三郎が翻訳して何幸五が校正したものである。

執筆者のヒルがアメリカ人であることは確かであるが、いつどのような目的で来日したのか、そしてどういう経緯で神奈川県庁に雇用されるようになったのかは定かではないと手塚（1963）[36] は述べている。ヒルの来日年月や目的、来日前の経歴は不明であるが、おそらく 1871 年から 1872 年に神奈川県庁に雇用されたものと思われる。[37] そして神奈川裁判所を経て、司法省在職中の明治 14 年（1881）3 月 2 日に契約満期を迎えたが、その後の足取りは分からない。[38] しかし大江は来日して間もないと思われるヒルの手腕を高くかっており、[39] ヒルは各国領事や英国の法律家たちと対等に渡り合えるだけの法的知識と外交能力を兼ね備えていたことは確かである。そのような高度な法的知識を有する専門家が執筆した「略記」を翻訳したのが林道三郎である。「略記」を翻訳するには英語力はもちろんのこと、ヒルには及ばなくとも翻訳者自身にもある程度の法律や裁判に関する知識が必要である。そして当然のことながら当時の国際情勢も把握していなければならない。

「略記」の日本語訳文についてであるが、いまの日本には存在するが、江戸時代にはおそらく存在しなかったであろう単語やフレーズが幾つか登場する。例をいくつか挙げてみる

政府　法律者　法律家　法律書　法律代言人　法律顧問　裁判
裁判所　萬國公法　萬國ノ法律　日本國律　清國律　地方律　約定
國民　原告　被告　訴訟　告訴　償金　天皇陛下　移民　職業
負債　ブランケツト　契約書　擁護　輸出　輸入　國權　給料
國法　刑法　請求　損傷請求　審判　刑訟
英國代理公使　清國事務役所　合衆國國會
裁判ヲ願フノ權理アルナリ（文脈から推測するに「權理」は現在の「権利」であろう）
被告ハ法ニ從ヒ篤ト勘辨ノ後…
手數ノ入費ハ原告ヨリ被告ヘ佛フベキナリ。（「手数料」のことであろう）

これらの大部分は裁判と法律に関する単語である。当時の情勢を鑑みるに、これは幕末の慶応元年（1865）に日本に伝わり、まず幕府の開成所で翻刻された「万国公法」が大きく関わっていると考えるのが妥当であると筆者は考える。まさに平井は、明治

[36] 手塚豊（1963）「司法省御雇外人ヒルとその建白書〈続続明治法制史料雑纂 10〉」『法学研究』41-3 p89
[37] ユネスコ東アジア文化研究センター編（1975）『資料 御雇外国人』小学館 p362-363　国立公文書館編（1976）『太政類典』国立公文書館
[38] ユネスコ東アジア文化研究センター編（1975）p362-363
[39] 雑賀博愛（1926）「大江天也伝記」大江太 p193-194

元年（1868）に政府から「万国公法」の翻訳を仰せつかっており、平井の翻訳がその後どうなったかは定かではないが、国際情勢に敏感であった旧唐通事たちは「万国公法」が日本に輸入された直後の慶応年間に読んでいたであろう。林と何も旧唐通事であった上、神奈川県庁に出仕するほどの人物であったことから「万国公法」を熟読していたと考えるのが自然である。そしてその「万国公法」を単語の訳し方の一助としたのではないだろうか。そう考えると、ヒルのような法律の専門家の知識についていけたことにも合点がいく。

林は裁判前はマリア・ルス号に乗り込んでいた清国人に直接事情聴取を行い、裁判に参加し、そして日本国内での裁判終了後には「略記」の翻訳に携わったわけであるが、一方何は「略記」の校正者としてしか名が見つからない。「略記」と何について中原（1979）は「幸五郎が林の訳述の結果について、どんな校訂を行ったかは明らかでない　……　神奈川県を転出していたので、刊行物に、責任のある現勤務県官の名をも記すのが適当と考えられたのが幸五郎が登場するに至ったひとつの理由であろう。」[40] と述べ、何の長崎から神奈川に転任したことについて「幸五郎が神奈川県に来任したときは、既述のように（清国人関係の）裁判事務に従うことを予定されたようであるが……」[41] と述べている。「略記」刊行より前に何は『香港港巡邏章程』（明治5年5月、横浜活版社刊行）という1869年4月27日制定施行された香港警察の『警察規則』を訳したもの、そしてそれ以前には『泰西千八百六十九年英国魏絨著述・本朝明治二年己巳崎陽何英繙訳』という世界地理入門書『地球略解』を刊行している。[42] よって何の神奈川県来任は依然混沌としている横浜の裁判事務を行うことであったかもしれないが、書籍や文書の翻訳も当然職務に含まれていたはずである。そこで筆者は何について中原（1979）の「責任のある現勤務県官の名をも記すのが適当」とする説には疑問を感じる。マリア・ルス号事件の国内裁判が終了して間もない10月に林は香港副領事の宣下を受け、翌年3月には東京を出立しており、そして同年9月に林は死亡している。「略記」が出版されたのは林がこの世を去って8カ月余りあとのことである。「略記」の編纂過程は明らかではない。裁判中にヒルが記録をとっていたものをその都度林が訳していた可能性もある。国内裁判が終了してからは、林がマリア・ルス号事件に関わった形跡は見られず、また香港にいたことから、最終的な「略記」のまとめや細部の校正は何が行ったのではないかと筆者は考える。何はマリア・ルス号事件に直接関わったわけではないが、「略記」の校正の役割は果たしていた。更に言うと、林のマリア・ルス号事件前後から死亡までの経歴や国内裁判終了から「略記」出版まで約1年7カ月の期間があることから、何も一部翻訳に関わった可能性があると考えてよいのではないだろうか。マリア・ルス号事件発生から第1次裁判が始

[40] 中原（1979）「何幸五郎略伝 ―　訳本「香港巡邏章程」を中心として」『警察研究』第49巻第3号　p26
[41] 中原（1979）p26
[42] 中原（1979）p11, 16

まるあいだに何が神奈川県一等訳官に昇進していること、また何には翻訳文献出版の実績があることから、今回の事件に関する文書などの翻訳に従事させる目的であったと思われる。何には事件発生直後から翻訳者としての役割を期待されていたのではないか。様々な事情を考え合わせると、何はただ「刊行物に、責任のある現勤務県官の名をも記す」ために登場したとする説には疑問が残る。

平井もこの裁判に立ち会っている。しかし裁判に立ち会った以外のことは分からない。当時平井は外務少丞という職についており、同じく外務省の職員であった外務大丞花房義質とともに裁判に立ち会っているが、その職質からするとそれは当然のことといえる。平井は幕末から 1872 年までの間に、条約関係、租税会議、異宗教問題の交渉や通訳を務めたり、日本国内で英国人が襲われた時にはそれに対処するため出張するなどし、外国との交渉や通訳者として様々な分野での経験を積んでいた。平井の外交的手腕は伊藤博文、三条実美、大久保利通らの明治政府高官からも一目おかれていたようである。[43] その経験と手腕を買われ、平井はこの複雑な要素が絡み合う裁判の立ち会いを任されたのであろう。

この事件の過程で清国と一番深く関わった日本側の人物は鄭永寧である。清国側との交渉は鄭がほぼ一手に引き受けていたと言ってもよい。事件発生後、鄭は上海滞在中であったが清国側の役所へ出向き、マリア・ルス号事件の状況について述べ中国側のこれに対する対応を尋ねている。[44] 清国側は陳福勲を日本に派遣することを決定するが、その際に鄭に同行を求めている。鄭は前年 1871 年の日清修好条約締結の際の交渉や協議に参加しており、清国側の高官にも名が知れていたであろうし、日本における清国通とみなされていたのかもしれない。鄭は陳福勲が上海を出発してから長崎・神戸を経て横浜・東京へ行く行程すべてに付き添っており、日本側の人物と陳福勲との会合の手筈を整えるなど日本国内でのあらゆる手配の行っていたようである。『华工出国史料汇编』によると、英語・日本語文書を漢文（中国語）に訳した（もしくは訳してくれていた）との記述が何か所かあることから、もちろん鄭はその通訳・翻訳にも関わっていたであろうし、また陳福勲の元に届けられた漢文文書は林・何というような中国語と英語が出来る旧長崎唐通事が関わっていたとも考えられる。
鄭と林は来日した清国使節との会合に出席している。[45] そして、鄭・林ともに事件解決に貢献したお礼として、のちに清国から絹織物を送られている。[46]

以上、マリア・ルス号事件に関わった 4 名の旧長崎唐通事の働きをみてみた。事件発生当時、林・何は神奈川県庁に、平井・鄭は外務省にそれぞれ出仕しており、事件の処理に当たるのは必然であったといえる。

---

[43]「毎日新聞」1980 年（昭和 55 年）10 月 25 日
[44] 陈翰笙主编（1985）『华工出国史料汇编』第一辑第三册 中华书局 p976,p979,p985
[45] 陈翰笙主编（1985）『华工出国史料汇编』第一辑第三册 中华书局　p991
[46]　同上　p1002

３．明治初期における旧長崎唐通事の価値

宮田安（1979）『唐通事家系論攷』[47] をみてみると、明治初期に活躍した旧長崎唐通事の唐通事としての最終職歴はだいたい小通事並上席、小通事並、小通事助、小通事過人、小通事末席であり神奈川詰や外国方御用として江戸出府を経験した者もいた。また明治に入ってから彼らは外務省、文部省、大蔵省、工部省、神奈川県庁、長崎裁判所などに出仕していたことが分かる。明治維新を迎えた時、彼らは 20 代から 30 代の働き盛りであった。

明治に入ってから、鄭幹輔の顕彰碑が崇福寺第一峯門前に建てられた。顕彰碑について宮田（1979）は以下のように述べている。

> 遺徳碑に言う『先生請于官聘美國人瑪高温氏倡率僚中弟子就學英語』
> 明治中興の外交が忙しいとき、唐通事出身者が多数輩出して朝野の間に大いに働いたのは、敏齊と号した鄭幹輔先生のおかげだと遺徳碑はそのあと説いているのである。[48]

この顕彰碑から明治に入って自分たちの能力を発揮する場を与えられたのは鄭幹輔のおかげであると旧長崎唐通事が深く実感していることがうかがえる。1860 年に鄭幹輔が死去したのちも彼の遺志を受け継いだ後進たちによって、譯家学校（唐通事学校）が設けられ、唐通事の子弟に中国語と英語を教えていった。鄭幹輔が唐通事内に英語兼修を取り入れたこと、そして英語の重要性を理解し彼の遺志を受け継ぎ勉学に邁進していった後進たちの努力により明治の世になって旧長崎唐通事は対外交渉などで活躍できたのである。

江戸時代、長崎唐通事は唐船貿易業務や唐人屋敷の管理など明国・清国（中国）との対外交渉を一手に引き受けていた。鎖国政策をとっていた日本は外国・外国人と接する機会は皆無に等しかった。その中で唯一異国と直接接触することができる長崎という地は、当時の日本にとって特殊な地であった。日本全体から見れば長崎は特殊な地であったが、唐通事にとっては外国人と接することが日常であり、当たり前のことであった。唐通事社会においても職制を拡大するなど、自分たちの権威・収入を守る保守的な動きも見られたが、江戸時代から連綿と受け継がれてきた唐通事の言語力・外交力などは、幕末に欧米諸国から開国通商を迫られたとき、また明治に入り日本が本格的に外交に乗り出したときに中央や開港地という長崎以外の場所でも必要とされるようになった。しかし旧長崎唐通事は華々しく政治や外交の場に登場したわけではない。平井や鄭のように公式史料に名を記される者もいたが、あくまで明治政府高官の補佐的存在であった。幕末最末期に士分にとりたてられた旧長崎唐通事もいたが、

[47] 宮田安（1979）『唐通事家系論攷』長崎文献社
[48] 宮田（1979）p680

新政府や県庁に出仕するにしては決して身分が高いとはいえず、また薩長閥でもなかった彼らがこのように政府要人の傍で働いていたことは、当時の状況を考えると異例のことといってよいだろう。それだけ明治初期の日本は外交に精通している人材がいなかったといえる。明治政府は外国との交渉に長けている長崎に即戦力として人材を求めたのであろう。

しかし、旧長崎唐通事も英語兼修のように従来の唐通事にはなかった新たなものを取り入れ、目まぐるしく変わる海外情勢に対応できるように努力を積み重ねていたことも評価しなければならない。明治初期の通訳は「通訳」ではなく「通事」「通弁」と呼ばれ、唐通事時代を同様に純粋に語学だけを売り物にする存在ではなかった。外交・貿易・国際国内情勢に精通していなければならず、彼らは時代の最先端をゆく知識人といってもよいのではないだろうか。常にあらゆる分野にアンテナを張り巡らせておかなければ、対外交渉に対処しきれないし、「略記」のように単語の訳し方にも対応出来ない。彼らが単に語学の専門家ではないことは、長崎唐通事時代の働きを見ても明らかである。江戸時代はもちろん明治初期においても彼らは、語学と様々な知識を売り物にする「通事」であった。外交はもとより、通商・裁判方面にも彼らの知識が必要とされ、当時の国内外の一流の知識を有する旧長崎唐通事は開国して間もない日本において即戦力としての価値を十分に備えた存在であったといえるだろう。

おわりに

本稿では、マリア・ルス号事件に関わった4名の旧長崎唐通事を通じて明治初期に旧長崎唐通事が果たした役割を考察した。しかし、この4名以外の旧長崎唐通事も開国したばかりの日本を支えていた。もし旧長崎唐通事がいなければ、開国したばかりの明治初期の日本の外交はどうなっていただろうか。旧長崎唐通事が関わったのは対外交渉だけではない。国内の外国人の傷害事件などにも対処していたのである。国内で起こった日本人と外国人の争いの処理も旧長崎唐通事は唐人屋敷の管理で学んでいたに違いない。旧長崎唐通事は長崎で学んだすべての経験と知識をもって、開国したばかりの日本の国内外の外国に関わる事案に対処していったのである。彼らは即戦力として明治初期の日本の外交に貢献したのである。

参考文献・史料

〈1次史料〉

潁川君平編・発行（1897）『訳司統譜』
小原巴山著（1979）『長崎文献叢書』第1集 第4巻（別タイトル『続長崎実録大成』）
外務省編（1940）『大日本外交文書』日本国際協会
外務省編纂（1997）『外務省沿革類従』クスレ出版

神奈川県立図書館編集・発行（1972）『神奈川県史料 第 8 巻』
国立公文書館編（1976）『太政類典』国立公文書館
越中哲也編（1985）『慶応元年　明細分限帳』長崎歴史文化協会叢書第 1 巻　長崎歴史文化協会
佐和希児編 林道三郎訳 何幸五郎校「白露国馬厘亜老士船裁判略記」明治文化研究会編（1956）『明治文化全集』第 11 巻　日本評論新社
赵尔巽等撰（1976）『清史稿』中华书局
陈翰笙主编（1985）『华工出国史料汇编』第一辑第三册 中华书局
通信全覧編集委員会編（1986）『続通信全覧　類輯之部　19　地処門』雄松堂出版
東亜同文会編（1977）『対支回顧録』下巻　原書房
長崎県教育会編・発行（1919）『長崎県人物伝』
「毎日新聞」1980 年（昭和 55 年）10 月 25 日
横浜郷土研究会編（1997）『神奈川奉行所職員録 ― 開港当時の役人たち』

〈参考文献〉

石橋正子編者・発行（2008）『マリア・ルス号事件関係資料集』
上原久（1971）「長崎通事の満州語学」『言語学論叢』11
王士皓（2009）「玛也西号船事件及其国际影响」《史学月刊》2009 年第 5 期
王铁军（2006）「玛丽亚・路斯号事件与中日关系」《日本研究》2006 年第 2 期
大久保利謙（1986）「幕末英学史における何礼之 ―とくに何礼之塾と鹿児島英学の交流 ―」大久保利謙歴史著作集 5『幕末維新の洋学』吉川弘文館
大庭脩（2001）『漂着船物語 ― 江戸時代の日中交流 ―』岩波新書
大庭脩・王暁秋編（1995）『日中文化交流史叢書 1　歴史』大修館書店
大山梓（1977）「マリア・ルース号事件と裁判手続」『政経論叢』26（5）
奥村佳代子（1997）「『唐話纂要』編纂の意図」中国語学 224
（2001）「近世日本における中国語受容の一端 -- 岡島冠山によって紹介された「唐話」」『中国語学』248
（2003）「唐通事資料に見られる唐話の変化」『中国語研究』5
尾佐竹猛（1956）「『白露国馬厘亜老士船裁判略記』解題」明治文化研究会編『明治文化全集』第 11 巻　日本評論新社
海妻玄彦（1965）「江藤新平とマリア・ルーズ号事件」『亜細亜大学誌諸学紀要 . 人文・社会・自然』14
笠原英彦（1996）「マリア・ルス号事件の再検討 ― 外務省「委任」と仲裁裁判」『法學研究』69（12）
喜多田久仁彦（2001）「唐通事の教本について :《小孩兒》《養兒子》の教本としての特徴」『外国語大学研究論叢』58

（2002）「唐通事の危機意識について」『京都外国語大学研究論叢』60
（2010）「唐通事の職掌について ―《譯家必備》から見る職務の一端」『京都外国語大学研究論叢』76
木津　祐子（2000）「唐通事の心得 ―ことばの伝承」『興膳教授退官記念中国文学論集』汲古書院
（2000）「『唐通事心得』訳注稿」『京都大學文學部研究紀要』39
http://ci.nii.ac.jp/els/110000056968.pdf?id=ART0000397322&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1400551552&cp=　（2014年5月20日閲覧）
木村直樹（2012）『〈通訳〉たちの幕末維新』吉川弘文館
許海華（2011）「長崎唐通事何礼之の英語習得」『関西大学東西学術研究所紀要 第44号　』 http://kuir.jm.kansai-u.ac.jp/dspace/bitstream/10112/6078/1/KU-0400-20110400-15.pdf#search='%E9%95%B7%E5%B4%8E%E9%80%9A%E4%BA%8B+%E8%AB%96%E6%96%87'　（2014年4月27日閲覧）
（2012）「幕末における長崎唐通事の体制」『東アジア文化交渉研究』5
（2013）「旧長崎唐通事与瑪也西号事件処理始末」王卫平编著《近代中国的社会保障与区域社会》社会科学文献出版社
楠家重敏（2012）「日英修好通商条約第21条をめぐって」『英学史研究』（45）
（2014）「幕末駐日イギリス外交官の日本語」『英学史研究』（47）
胡连成（2004）「近代中日关系史上的一件往事 ― 1872年马里亚老士号事件研究」《暨南学报》（人文科学与社会科学版）2004年第6期
http://www.historychina.net/qsyj/ztyj/zwgx/2005-01-10/25367.shtml　（2014年9月26日閲覧）
古賀十二郎（1947）「米人Dr.D.J.Macgowanの渡来　附唐通事の英語研究」『徳川時代に於ける長崎の英語研究』九州書房
雑賀博愛（1926）『大江天也伝記』大江太
朱全安（2004）「深見玄岱について：近世日本における中国語の受容に関する一考察」『千葉商大紀要』41（4）
http://ci.nii.ac.jp/els/110004631743.pdf?id=ART0007344477&type=pdf&lang=jp&　host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1400551957&cp=　（2014年5月20日閲覧）
添田仁（2009）「〈開港場行政〉の形成と長崎」大阪歴史学会『ヒストリア』第218号
孫傑生（2004）「特別寄稿 試論唐通事与唐話的傳播在中日交流史上的價値」『創大中国論集』（7）
髙山百合子（2013）「トンキン通事魏龍山『訳詞長短話』成立の背景」『筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要』8

http://www.lib.chikushi-u.ac.jp/kiyo/8_19.pdf#search='%E9%95%B7%E5%B4%8E+%E9%80%9A%E4%BA%8B+%E9%80%9A%E8%A9%9E+%E8%AB%96%E6%96%87'　（2014 年 4 月 29 日閲覧）
武田八洲満（1981）『マリア・ルス号事件 ― 大江卓と奴隷解放 ―』有隣堂
田保橋潔（1929）「明治 5 年のマリア・ルイス号事件」『史学雑誌』第 40 編 第 2、3、4 号
塚本慶一（2013）『新版　中国語通訳への道』大修館書店
手塚豊（1963）「司法省御雇外人ヒルとその建白書〈続続明治法制史料雑纂 10〉」『法学研究』41-3
唐通事会所日録研究会（1954）「唐通事会所日録の研究」『史学研究』（54）
徳永和喜（1998）「薩摩藩の唐通事について」『南島史学』（51）
鳥飼玖美子編（2013）『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房
中原英典（1979）「何幸五郎略伝 ― 訳本「香港巡邏章程」を中心として」『警察研究』第 49 巻第 3 号
中村質（1960）「鎖国時代の在日華僑 ―唐通事について―」『史学研究』（77.78.79 合併号）
（1986）「外国金銀の輸入と別段商法：享和三（一八〇三）年の唐船貿易をめぐって（箭内健次先生喜寿記念号）」『駒澤史学』34
（1997）「日本来航唐船一覧 明和元～文久元（1764 ～ 1861）年」『九州文化史研究所紀要 』（41）
林陸朗（2010）『長崎唐通事―大通事林道栄とその周辺』長崎文献社 ; 増補版
原田博二（2003）「阿蘭陀通詞の職階とその変遷について」『情報メディア研究 』2（1）https://www.jstage.jst.go.jp/article/jims/2/1/2_1_45/_pdf　（2014 年 4 月 29 日閲覧）
平井洋（1997）『維新への澪標 ― 通詞平井希昌の生涯』新人物往来社
正宗一宏（1959）「近世中日貿易における唐通事 ― 密貿易研究への序説として」『史学研究』（72）
松浦章（2006）「清代沿海帆船に搭乗した日本漂流民」『或問』59　No12
松岡雄太（2013）「『翻訳満語纂編』と『清文鑑和解』の編纂過程」『長崎外大論叢 』（17）http://ci.nii.ac.jp/els/110009759084.pdf?id=ART0010252160&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1400552645&cp=（2014 年 5 月 20 日閲覧）
松本功（1958）「唐通事の研究 ―　特に訳司統譜・唐通事会所日録を中心として」『法政史学』（10）
宮田安（1979）『唐通事家系論攷』長崎文献社
武藤長平（1978）『西南文運史論』同朋社（大正 15 年刊の複製）

村田雄二郎編（2010）『万国公法の時代 ― 洋務・変法運動』岩波書店
森田朋子（2005）『開国と治外法権 ― 領事裁判制度の運用とマリア・ルス号事件』吉川弘文館
森田三男（1988）「テーマ「人権を考える」-1- アジアの人権問題 -- マリア・ルーズ号事件について（報告）」『創価法学』18（1）
安岡昭男（2002）『幕末維新の領土と外交』清文堂
山本巌（1988）「唐通事始考」『宇都宮大学教育学部紀要 』第 1 部（38）
（1989）「唐通事始続考」『宇都宮大学教育学部紀要』第 1 部（39）
山本忠士（2005）「明治新政府と「人権問題」-- ハワイ出稼人召還、日本人小児買取とマリア・ルス号事件」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』（5）
山本綱紀（1983）『長崎唐人屋敷』謙光社
山脇悌二郎（1960）『近世日中貿易史の研究』吉川弘文館
（1964）『長崎の唐人貿易』吉川弘文館
ユネスコ東アジア文化研究センター編（1975）『資料 御雇外国人』小学館
横山宏章（2011）『長崎　唐人屋敷の謎』集英社文庫
六角恒廣（1981）「唐通事と唐話教育」『早稲田商学』292
（1984）『近代日本の中国語教育』不二出版
和田正彦（1980）「長崎唐通事中の異国通事について― 東京通事を中心として―」『東南アジア　－歴史と文化－』（9） https://www.jstage.jst.go.jp/article/sea1971/1980/9/1980_9_24/_pdf　（2014 年 4 月 29 日閲覧）

＜研究ノート＞

The Great Gatsby をどう訳すのか
――英・日・中３カ国語におけるタイトルの変化

唐　張熹

要　旨

英語の単語 great は、日常生活の中でよく使われる単語である。great という単語には多くの意味が含まれている。「大きな」、「重要な」、「偉大な」などの意味を表すことが辞書にも記載されている。だが、日本語や中国語では、great の翻訳はただ一つの単語に当てはめることはできない。この作品における great がどのように訳されてきたのか、また英・日・中３カ国語における great の理解についてはこれまで論じられてはいない。本稿では、20 世紀アメリカ文学における代表的な作品である F・スコット・フィッツジェラルド（F. Scott Fitzgerald, 1896-1940）の『グレート・ギャッツビー』（*The Great Gatsby*, 1925）を取り上げる。まず、タイトルの中にある great は、日本語訳と中国語訳ではどのように訳されてきたのかを見ていく。そして、どのように great という単語の訳は変わってきたのかについて考察する。

キーワード：翻訳、great、*The Great Gatsby*、F. Scott Fitzgerald

A Study on the Translations of *The Great Gatsby*
― Comparing the Titles in English, Japanese and Chinese

Abstract

The word “great” is often used in our lives. It contains a lot of meanings. Not only “large”, “important” or “admirable”, but also other meanings are described in the dictionary. However, the translation of the word “great” cannot fit in one word

in Japanese and Chinese. How should we translate the word “great” in this novel? It has not been discussed how to understand the meaning of “great” in these three languages so far. In this paper, I will pick up *The Great Gatsby* (1925) written by F.Scott Fitzgerald (1896-1940), which is one of the representative novels in the 20th century American literature. In this paper I will discuss how the translations of the title of the novel have been changed in the past several decades in Japanese and Chinese.

Keywords: translation, great, *The Great Gatsby*, F.Scott Fitzgerald

0. 研究目的

The Great Gatsby の日本語訳はこれまで 7 人の日本語訳者によって刊行されたことが確認できる [1]。タイトルの訳はいくつかある。それは、『夢淡き青春』、『偉大なギャツビー』、『華麗なるギャツビー』、『グレート・ギャッツビー』である。

内陸の中国語訳では、翻訳者は何人かいるがタイトルの訳は 2 つしかない。それは、『了不起的盖茨比』と『伟大的盖茨比』である。

台湾では翻訳者も何人かいた。訳版もいくつかある。タイトルの訳は『永恒之恋』、『大哉！盖世比』、『大亨—凱士毕』、『大亨小傳』がある。

以上の訳版からみると、タイトルである *The Great Gatsby* の翻訳は時代の変化とともに変ってきたことがわかる。書名の中の great という単語は最も訳しにくい語であると考えられる。本稿では、タイトルにおける great ついての理解とその変化を明らかにしていきたい。

1. 先行研究

1.1. 辞書の記述

まず、英語辞書における great の意味を確認しておきたい。『現代英英辞典』から、いくつかの主な意味について下に記す。

1. well above average in size, extent or quantity
2. of remarkable ability or quality
3. very suitable for something ideal or useful for something
4. important, noteworthy
5. beyond the ordinary

[1] 吉岡泉美「F. Scott Fitzgerald “The Great Gatsby” における野崎孝、村上春樹、小川高義による日本語訳比較分析——小川高義の翻訳ストラテジーにおける新規性に着目して」(2012)『湘南藤沢学会・Open Research Forum 2012』

以上からみると、英語 great という単語には多くの意味が含まれている。例えば、「すご腕」、「大きな」、「重要な」などである。

1.2. 翻訳に関する先行研究

1.2.1. 文学翻訳

新熊（2008）によると、「文学翻訳」とは、翻訳の一つの範疇であり、その名のとおり詩や小説、戯曲などの文学作品の翻訳を指している。文学作品の翻訳テクストは、「翻訳文学」と呼ばれ、文学の一つのジャンルとして成り立っている。日本では明治10年頃から海外の文学作品の芸術性を意識しながら翻訳することが盛んに行われてきた[2]。つまり、文学作品の翻訳は他の翻訳と違い、特別な種類であると指摘された。

1.2.2. 翻訳の言葉と理論

A. 深谷・田中（1996）によると、言葉の意味がどこにあるのかについては、「外在説」、「内在説」、「構成説」に分けられる[3]。

a）「外在説」：辞書に書かれてあるような意味が言葉に貼りついているという考え。

b）「内在説」：言葉の意味は人の心の中にあるという考え。

c）「構成説」：言葉の意味は1回1回のコミュニケーションをしながらつくりあげていくという考え。

B. 斎藤（2012）によると、文学翻訳の言葉は新聞・雑誌記事などの翻訳とは異なり、長いあいだ読み継がれる可能性が高い翻訳の分野であることが指摘されている[4]。翻訳は時代に合わせた新訳の必要があり、文学作品の初めての翻訳書が出版されてから数10年経つと、目標言語の言葉づかいや文字の表記方法に変化が生じることがある。

C. 柳父[5]（2004）はAという言語・文化をBという言語・文化に翻訳する行為は、起点言語・文化のもつ異質な要素を目標言語・文化に移入することであり、結果的にAでもBでもないCという新しい言語・文化ができあがると考える。言語・文化Cは、AやBの要素も残しつつ、AにもBにとっても未知で異質な要素をもつものであると指摘する[6]。

D. 鳥飼（2013）によると、「中国語の翻訳論を語るうえで、まず筆頭にあげられるのが、近代中国の翻訳論である厳復[7]の信達雅である[8]」。

---

[2] 新熊清（2008）『翻訳文学のあゆみ―イソッポからシェイクスピアまで』世界思想社　65頁

[3] 深谷昌弘・田中茂範（1996）『コトバの（意味づけ論）』紀伊国屋書店

[4] 斉藤美野（2012）『近代日本の翻訳文化と日本語―翻訳王・森田思軒の功績』ミネルヴァ書房

[5] 柳父　章（1928 -）は翻訳語研究者、比較文化論研究者。彼は昭和から平成にかけての翻訳論で代表格といえる。近代日本の翻訳が日本の文化と言語に影響を与えたことを論じている。

[6] 柳父　章（2004）『近代日本語の思想 ― 翻訳文体成立事情』 法政大学出版局

[7] 厳復（1854-1921）は清末民国初に活躍した啓蒙思想家・翻訳家である。1877年に彼は留学生としてイギリスにいった。1898年に代表的訳書『天演論』を出版した。この書籍は中国における最初の「社会進化論」紹介であり、当時において一世を風靡した。

[8] 鳥飼　玖美子（2013）『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房　148頁

そして、現代中国において、季羨林[9]は厳復の理論をもとに「信達雅」は3文字のみで、作品と読者と言語の三者間の関係を体現していると述べたうえで、「信」とは原作に忠実であること、「達」とは読者に忠実であること、「雅」とは文学言語に対する忠誠であると定義づけた。原作、読者、言語という3つの視点から忠実性を追求することが翻訳基準になると主張している[10]。

1.2.3. 文化の翻訳

翻訳において、異なる文化と言語間でのコミュニケーションでは、互いの文化を理解することが必要となっている。クリフォード・J・マーカス（1996）によれば、翻訳は文化や社会、歴史という状況の中で考察するべきだとする翻訳学の新たな展開とも結びついていった。そして、文化の翻訳が不均衡な力関係の中で展開する以上、翻訳者だけではなく、人々も異文化社会、多文化社会に生きる文化の翻訳者として、課題をつきつけられることになる[11]。つまり、翻訳は単なる単語の置き換えではない。話し手、書き手の社会、文化的背景を深く理解した上で、その思いを正しく伝えることが最も重要である。

2. 研究対象と研究方法

本稿で取り扱うgreatはフィッツジェラルドの代表作である*The Great Gatsby*のタイトルの中にある単語を取り上げる。分析に使用する書籍は、1957年から2009年にかけて日本で出版された訳版である。そして、中国語訳は1982年から2013年までの間で訳された書籍を取り上げて分析する。また、台湾訳は1954年から2012年までに出版された小説のタイトルにおけるgreatについての訳を取り出したものである。

3. 調査結果

2000年までに出版された*The Great Gatsby*におけるgreatの翻訳はバラバラであった。だが、最新の訳版をみると、日本語に訳された小川（2009）、野崎（1989）と村上（2006）の3冊、中国語訳の『了不起的盖茨比』（刘峰、2012）1冊と台湾訳版（李佳纯、2010）、（徐之野、2012）、（王聖棻、2012）の『大亨小傳』3冊から、greatの訳を取り上げると、日本語の場合は「グレート」に訳された。内陸の中国語では「了不起的」という単語を使って訳された。台湾の訳版では、greatを一つの単語を使って直訳するのではなく、小説の内容に基づき、タイトルを『大亨小傳』と訳した。greatに関する翻訳は何回も変わったことがあり、日本語や中国語に対して、

---

[9] 季羨林（1911-2009）は現代中国の翻訳家、文学者、教育者。1941年にゲッティンゲン大学哲学博士学位を取得し、元北京大学東方言語文学部教授、学部長。
[10] 季羨林・许国璋（1986）『季羨林谈翻译』当代中国出版社　1-7頁
[11] クリフォード・J・マーカス / 春日直樹 , 和邇悦子 , 足羽與志子 , 橋本和也 , 多和田裕司 , 西川麦子（1996）『文化を書く』紀伊國屋書店　116-119頁

一つの単語を使って当てはめられないことがわかる。

4. 分析

本稿では、まず、小説のあらすじと当時のアメリカの社会状況について紹介する。次に、小説で扱われていた great という単語は日本語や中国語の翻訳ではどうなっているのかについて分析する。そして、翻訳する際に使われた言葉は小説における英語の great の意味を完全に表現できるかどうかについて説明するが、本論文では great は本文の中でどう訳されたのか、日本語訳版と中国語訳版の違いなどについては触れていない。しかしながら、今後は、それらの違いについても更に分類と分析をすることが必要であると考える。

4.1. 原作に関する紹介

4.1.1. 小説と作家

The Great Gatsby はフィッツジェラルドの代表作であり、アメリカ文学史上においても代表的な作品と見られる。*The Great Gatsby* はただ小説として読まれてきただけではなく、何度も映像化され、映画の *The Great Gatsby* も人気は高い。

まず、作家であるフィッツジェラルドは父方からアイルランド人が持っている「二重ビィジョン」の性格を継いだ[12]。また、彼は母方から自恃の精神と激しい野心も受けついでいた[13]。つまり、彼の両親の家系がもたらした性格は後のフィッツジェラルドの創作に大きな影響に与えたと考えられる。

また、この小説のあらすじは次のようになっている。語り手であるニックの目からみた周りの人たちの生活を中心にした小説である。ニックの出身地はアメリカの中西部であり、イェール大学を卒業し、ニューヨークにある証券会社で働くことになった。ある日、ニックはギャッツビーのパーティーに招かれた。ギャッツビーは金持ちになったら、すでに結婚したデイジーが戻ってくるという信念を持っていた。しかし、密造酒の疑いがあるギャッツビーの夢は最後に砕けてしまう。

作家であるフィツジェラルドは人間の挫折や弱さと向き合った人生を送った。高橋（2014）はセント・ポール時代、そしてプリンストン時代を通じて培われた階級意識に言及している。フィツジェラルドの抱いた階級意識とは、むしろ自ら特権階級に属しているという優越感ではなく、特権階級と自分との間に厳然と存在する壁そのものであった。この意識を抜きにして、彼の文学を語ることは不可能であると指摘した。フィツジェラルドの人生を振り返り、いくつかのポイントに注目すべきであろう。それは大学の生活、陸軍への入隊、妻の浪費的生活スタイル、アルコール依存症などである。*The Great Gatsby* 中に語られた物語は自分自身が経験してきたこと、また当

[12] 高橋美知子（2014）「F. Scott Fitzgerald の作品における人種表象」『福岡大学研究部論集』107 頁
[13] 高橋（2014）前掲資料　109 頁

時のアメリカ社会における自分の周りの人たちのことでもある。

4.1.2. 当時のアメリカ

クリフォード・J・マーカス（1996）は、翻訳は文化や社会、歴史という状況の中で考察するべきだと指摘しているから、その当時のアメリカ社会を理解することが必要である。フィッツジェラルドはいったいどんな社会の中で生きてきたのか。この節は当時のアメリカ社会について述べる。

a） アメリカの国力と大衆化

まず、第一次世界大戦後、アメリカはヨーロッパの国々を追いかけ、世界一流の国となっていった。経済の成長は毎年続いた。また、第一次世界大戦後はアメリカ文化の大衆化が著しく進展した。特に1920年代は、アメリカ社会は大量生産・大量消費の経済が繁栄していた。様々な商品は大衆化してきた。

そして、フォードに代表される自動車も普及してきた。1920年代になると、様々な製造業は大量生産を行い、社会は大量消費時代に入った。世界で最も富める国としてのアメリカはその地位をさらに強化してきた。その大量生産技術の発展により、多くの商品は中産階級の手に届けられた。自動車、映画、ラジオおよび化学産業が1920年代に急成長を遂げた。それらのモノは商品化され、大衆の手に届けられた。その中でアメリカの自動車産業は最も重要であった。戦前、自動車は贅沢品であったが、1920年代に入り、大量生産された自動車はアメリカでは普通の商品になった。*The Great Gatsby* の中では主人公たちは当時の斬新な自動車を持ち、高速道路を速いスピードで運転していたシーンが何回かあった。

フィッツジェラルドは当時のバブル経済を実感し、その時期の人々の生活と考え方を小説のモデルにして作品を書いた。*The Great Gatsby* の語り手であるニックは当時証券会社に勤めていたし、数多くの経済新聞を読むことが日課であった。休日でも経済、金融など書籍を読みながら過ごしていた。

b） ジャズ・エイジと禁酒法

ジャズ･エイジ（Jazz Age）という言葉はF･スコット･フィッツジェラルドの『ジャズ・エイジの物語』（*Tales of the Jazz Age*,1922）に由来している。1920年代は第一次世界大戦が終結し、アメリカではジャズが時代の流行の音楽となり、人々は享楽的だった。そして、当時アメリカでは都市文化が発達し、大量消費時代・マスメディアの時代にも入っていた。それは「狂騒の20年代」と呼ばれる。つまり、ジャズ・エイジは1920年代におけるアメリカの文化と世相を指す言葉である。1920年代のジャズ・エイジの意義は何か。ジャズ・エイジの最大の歴史的意義は、今日あるアメリカ人の国民性と、現在まで続くアメリカの生活様式が、この時代に形成されたことにあ

る[14]。

アメリカが国家として独立して以来、この時まで百数十年に培われた国民性が基礎になっていて当然であり、古来からのピューリタニズムと、半世紀にわたるヴィクトリアニズムを過去のものとしたあと、アメリカ人の心には顕著な自由主義と個人主義が、さらには女性の権利尊重、セックスを含めての享楽的志向が、多くを占めることになった[15]。

そして、アメリカ人のライフスタイルにあっては、ほとんど現在の様式の原形がジャズ・エイジにみられる。また、それらの生活様式は今のアメリカ国内で続けられてきただけではなく、世界の国々に影響を与えた。日本や中国などのアジアの国々にもその生活様式の影響が与えられたと思われる。そのアメリカの生活様式だけではない、映画や音楽などの文化的なモノも世界中で広がっていた。だから、1920 年代のアメリカから様々な教訓を得ることができると考えられる。

一方、当時のアメリカでは密造酒を買って所有していると違法行為として規制することが予定されていた。だが、反禁酒派の金持議員からの猛反対で、妥協の条項が盛り込まれた。この法律の通過後アメリカ全土で酒の買い溜めが始まった。それは金が必要であるため、貧乏人はそんなにたくさんの酒を買い溜めなかった。その条項はお金持達が自分達の為に作らせたものである。

この禁酒法は当時アメリカ政府が高い理想を持って成立した法律と国情の間で大きなギャップがあった。このギャップを示すために、フィッツジェラルドは小説の中で何回かの飲酒シーンを書いた。*The Great Gatsby* の中に金持ちは自分の地位を示すために家で、またパーティの場面には、必ず酒を置いた。例えば、トムの家には多くの酒があった。その酒は買い溜めの酒であると見られる。だが、ギャツビー邸で行ったパーティではたくさんの酒が用意され、参加者たちは自由に飲んでいた。ギャツビーが自分は大金持ちであったことを他人に示すためにそれらの大量の酒を提供していたが、ギャツビーは酒を買い溜めたのではなく、密造酒を買って飲んでいたり、自分も密造を通じ、金持ちとなっていた。この禁酒法は不平等な法律であるし、様々な問題が生じてうまく機能しなかった。

c) 舞台としてのニューヨーク

まず、都市人口は大幅に増加していた。1910 年からの 10 年間でニューヨーク市は世界有数の大都市となった。多くの人々は農村や中西部からニューヨークに移住した。アメリカの都市化は 1920 年代に頂点に達した。

また、大衆文化は都市に普及した。アメリカでは、ハイブラウとロウブラウという呼び方があるのと同時に、主にそれらの人たちが創造し支えてきたと考えられる文化

[14] 津神久三（1998）『ニューヨーク・ジャズエイジ : 芸術都市にみる狂騒の 10 年』中央公論社　9 頁
[15] 津神（1998）前掲書　10 頁

や芸術も、「ハイ」と「ロウ」の区分をすることがある。それぞれの文化的階級が創る文化の総体は、「エリート文化」と「大衆文化」と呼ばれるものである[16]。当時の一つの都市文化としての音楽は各都市で流行ってきた。この頃の音楽ではニューオリンズにはじまった黒人音楽ジャズが、シカゴ、カンサスシティ、ニューヨークなどで都会的に洗練されてきた。ギャツビーのパーティでは様々な音楽が流れていた。

そして、金融業界は最も狂った業界といえる。ニューヨーク市のあるウォール街は世界金融市場をリードする一つの金融センターとなった。ニューヨーク証券取引所は世界における最大級の株式取引所だった。小説において、ニックは証券会社に勤めていた。周りの人たちはよく株などの金融に関係している話題について話していた。

d） パーティの黄金時代

1920年代のアメリカには、もう一つ特筆すべきことがあった。それは、みんながのべつ幕なしにパーティを開いていたことである。この飽食の時代は、中産階級の間では私宅で、アパートで、あきれたことにオフィスでさえパーティがしきりに催された[14]。作家であるカール・ヴァン・ヴェクテン（Carl Van Vechten、1880-1964）は次のように書いていた。

「20年代はパーティの時代だった。だれもがお互いに、招いたり、出掛けて行ったりした。行けば山盛りの料理とたくさんの飲み物、つきないお喋り、それにたしか好色なことだっていくらでもあった[17]」。

そのカール・ヴァン・ヴェクテンはジャズ・エイジを体現する文学者の一人だと見られる。つまり、パーティを開くことは当時の生活の中の一部と認められ、アメリカ文化となっていた。*The Great Gatsby* に、当時流行っていたものがほぼ全部取り入れられた。バブル期に入っていたアメリカでは、人々はラジオをはじめ自動車などの新商品を手に入れ、普及してきた大衆文化の中で享楽的に過ごした。パーティや酒なども含まれる *The Great Gatsby* はその時代の縮図と言われる所以である。

以上は当時のアメリカ社会の状況について紹介したものである。これらのアメリカの社会、歴史などを理解した上で、次に great について分析する。

4.2. 日本語訳 great の意味と理解

原作の日本語訳については、吉岡（2012）によると、いままで7人の日本語訳者による刊行が確認できる。訳者は発行年度順に、大貫三郎（1957）、野崎孝（1957）、（1966）、（1989）、佐藤亮一（1974）、橋本福夫（1974）、守屋陽一（1978）、村上春樹（2006）、小川高義（2009）である。これらの翻訳者たちは *The Great Gatsby* をどう翻訳したのか。次の表1は吉岡（2012）の論文に基づき、様々な資料を扱って作った表である。

[16] 笹田直人、堀真理子（2002）『概説アメリカ文化史』ミネルヴァ書房　138頁
[17] 津神（1998）前掲書　176頁

（図表１）

図表 1、日本語訳 *The Great Gatsby* の書名

書名	翻訳者	出版社	出版年
『夢淡き青春』	大貫三郎	角川文庫	1957 年
『偉大なギャツビー』	野崎孝	研究社出版	1957 年
『偉大なギャツビー』	野崎孝	集英社文庫	1966 年
『華麗なるギャツビー』	佐藤亮一	講談社文庫	1974 年
『華麗なるギャツビー』	橋本福夫	ハヤカワ文庫	1974 年
『華麗なるギャツビー』	守屋陽一	旺文社文庫	1978 年
『グレート・ギャツビー』	野崎孝	新潮文庫	1989 年
『グレート・ギャツビー』	村上春樹	中央公論新社	2006 年
『グレート・ギャッツビー』	小川高義	光文社古典新訳文庫	2009 年

出典 : 吉岡（2012）に基づいて著者作成

以上のデータからみると、*The Great Gatsby* は 1957 年から現在まで、翻訳版の書名は何回も変わったことがわかる。最初、大貫三郎は『夢淡き青春』を書名にした。『夢淡き青春』は本書の書名である *The Great Gatsby* とは全く関係ない単語を使って翻訳した。1950 年代の日本では、英語教育はまだ進んでいなかった。1920 年代のアメリカに対する理解は不足していた。また、明治維新後、多くの西洋小説が日本に流入してきた。それらの小説は純粋な翻訳小説ではなく、大衆に受け入れられやすい翻案小説をとして拡がる。その翻案小説とは自国の状況に合わせて翻訳した小説である。そのため、訳者は *The Great Gatsby* は青春の恋愛小説だったと考え、当時の読者に受け入れやすい書名をつけたと考えられる。

そして、野崎孝は『偉大なギャツビー』を書名にした。小説の主人公の Gatsby は「ギャツビー」に翻訳したが、great は「偉大な」という形容詞を使って訳した。1974 年から出版された *The Great Gatsby* の翻訳者たちはそろって『華麗なるギャツビー』を書名にした。1974 年から 1978 年までに出てきた日本語訳の *The Great Gatsby* は Gatsby は前の野崎孝と同じで「ギャツビー」に訳したが、great の訳は前の「偉大な」ではなく、「華麗なる」という言葉を使った。1970 年代の日本は高度成長を成し遂げ、アメリカ文化を崇拝した。だから、『華麗なるギャツビー』というタイトルをつけた。それから、1989 年に野崎孝は新たな翻訳版を出した。今回の書名は漢字を一つも入

れずに、すべてカタカナを使い、直訳で『グレート・ギャツビー』にした。Gatsby は直接に「ギャツビー」と訳し、great は「グレート」と訳した。

つまり、最初の翻訳タイトルは『夢淡き青春』1 回と『偉大なギャツビー』2 回がある。そして、『華麗なるギャツビー』と『グレート・ギャツビー』は各 3 回ある。今までの *The Great Gatsby* の翻訳では Gatsby は「ギャツビー」、あるいは「ギャッツビー」と訳したが、great についてはいくつか違う訳がある。great という単語には様々な意味が含まれており、主人公に対する評価も複雑となった。この小説において、great の翻訳は「偉大な」、「華麗なる」に当てはめられない。だから、野崎孝、村上春樹、小川高義は皆「グレート」と訳した。

以上の分析をまとめると、日本語訳の *The Great Gatsby* は『偉大なギャツビー』、『華麗なるギャツビー』と『グレート・ギャツビー』という 3 つの訳がある。Gatsby は「ギャツビー」と訳した。great は「偉大な」、「華麗なる」、「グレート」という 3 つの訳がある。「偉大な」、「華麗なる」、「グレート」の意味は何か。

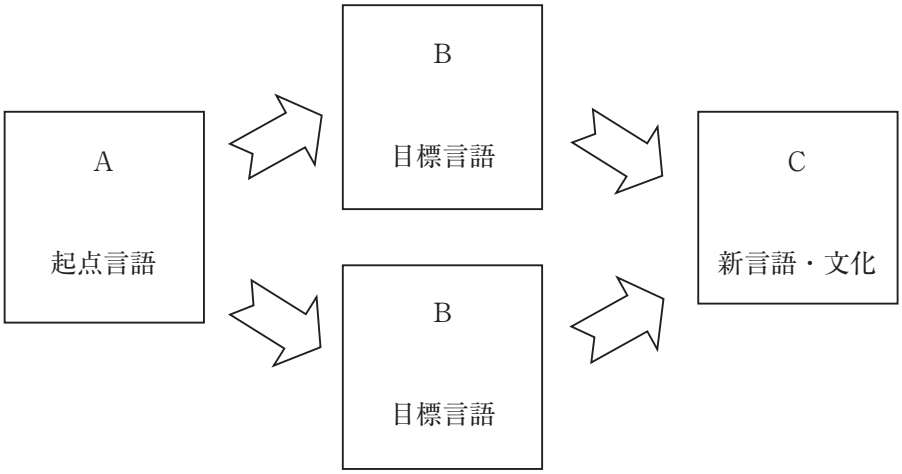
『広辞苑』によると、その三つの単語は次のような意味を表している。

1）「偉大な」の意味はすぐれて大きいこと。立派なこと。「偉大な政治家」、「偉大な業績」。
2）「華麗なる」の意味は華やかで美しいこと。「華麗な演技」。
3）「グレート」の意味は大きいさま。偉大なさま。

その以上から見ると、英語の great は日本語を訳す際に完全に当てはまる単語はない。そのために *The Great Gatsby* の日本語訳のタイトルは何回か変わったことがある。そして、小説 *The Great Gatsby* においてはギャツビーはいったいどういう人だろうか。ギャツビーに対しては、読者によって違う印象が持たれているとわかる。翻訳者ももちろん自分自身のギャツビーに対するイメージが違うから、タイトルの訳は同じではない。だが、辞書においては日本語の「グレート」という単語の意味は「大きい」、「偉い」である。その意味は小説 *The Great Gatsby* の great という意味に当てはまらないと思われる。great はどのように理解したらよいのか。

つまり、先行研究をふまえ、柳父は A という言語・文化を B という言語・文化に翻訳する行為は、起点言語・文化のもつ異質な要素を目標言語・文化に移入することであり、結果的に A でも B でもない C という新しい言語・文化ができあがると指摘した。主人公である「Gatsby」は偉大な、華麗なる人だと言える。小説タイトルの中の「グレート」という単語は起点言語「great」と目標言語「偉大な」、「華麗なる」から移入された新しい言語・文化である（図表 2）。また、日本ではアメリカ文化が普及し、英語教育も進んでいった。そのため、「グレート」は「偉大な」、「華麗なる」などの意味が含まれている単語だと考える。

図表 2：タイトルの「グレート」



4.3. 中国語訳「great」の意味と理解

4.3.1. 内陸における「great」の意味と理解

The Great Gatsby は中国内陸において、1978 年改革開放以降から中国語で訳され始めた。特に、2012 年に新たな映画が上映されたことにより、翻訳の数が増えてきた。中国では数多くの翻訳者たちは *The Great Gatsby* を中国語に訳したが、タイトルは『了不起的盖茨比』と『伟大的盖茨比』二つの書名にした。（図表 3）

図表 3、中国における主な翻訳版

書名	翻訳者	出版社	出版年
『了不起的盖茨比』	巫　宁坤	译林出版社	1982 年
『了不起的盖茨比』	姚　乃强	人民文学出版社	2004 年
『了不起的盖茨比』	刘　　峰	译林出版社	2012 年
『伟大的盖茨比』	杨　　帆	上海世界图书出版公司	2012 年
『了不起的盖茨比』	邓　若虚	南海出版公司	2012 年
『了不起的盖茨比』	杨　　帆	上海译文出版社	2012 年
『了不起的盖茨比』	李　继宏	天津人民出版社	2013 年

出典 http://www.amazon.cn/s/ref=nb_sb_noss_1?__mk_zh_CN&url=search-alias%3Daps&field-keywords= 了不起的盖茨比 &sprefix= 了不起的盖茨比 %2Caps　により著者作成

図表3をまとめる。今まで調べた段階で、中国語版の *The Great Gatsby* の中国語訳の際に、Gatsby はみんな一緒に「盖茨比」を訳された。「盖茨比」のピンインは「gai ci bi」と呼ばれる。つまり、Gatsby の発音と近い単語を使って訳した。また、great は「了不起的」や「伟大的」という二つの形容詞で訳した。「伟大的」は日本語訳の「偉大な」とほぼ同じ意味と扱っている。そして、数多くの中国語版は「了不起的」という単語を使って訳したと見られる。従って、great を「了不起的」と訳した。その「了不起的」の意味は何か。中国語、日本語、英語の辞書を調べる。

1）『現代漢語大辞典』では、①伟大、重大、严重。②不寻常、特出。③令人钦佩的という三つの意味がある。
2）『漢英大辞典』によると、amazing、terrific、extraordinary という意味である。
3）『クラウン中日辞典』をみると、大したものだ、非凡だという日本語の意味である。

その以上から見ると、*The Great Gatsby* の great という単語を訳する際に翻訳者たちは日本人翻訳者と同じく、小説の内容についてじっくり考え、Gatsby に憧れる単語を使って訳した。

中国語では、「了不起的」は人を褒める時に使われる単語だけではなく、様々意味が含まれている単語である。そして、中国語の「了不起的」には「普通ではない」、「特別な」という意味もある。つまり、中国社会は 1940 年代から 1970 年代にかけて、中国における文学の状況が最も厳しい時代だったと言える。アメリカは敵国であったため、アメリカ人作家の中ではマーク・トウェイン（Mark Twain, 1835-1910）をはじめ反帝国主義作家の作品しか出版されなかった。しかし、改革開放以降、様々な製品が海外から輸入されたので、人々は西洋文化に憧れる傾向がある。また、英語教育が本格的に導入され、海外の文学作品も多く輸入された。そのため、*The Great Gatsby* 最初の中国内陸訳は 1982 年に出版された。当時の人々がアメリカ文化に憧れ、タイトルの great は「了不起的」に訳された。「了不起的」は「偉大な」、「特別な」、「感心する」、「敬服する」などの意味が含まれていると考える。

4.3.1. 台湾における「great」の意味と理解

これまで台湾では *The Great Gatsby* はどのように訳されてきたのか。台湾で最も大きな書店である「誠品書店」のネット販売サイトを使い、図表 4 を作成した。

図表 4 からみると、台湾では最初の訳版は 1954 年に出版された。書名は『永恒之恋』であった。そして、1969 年と 1971 年の中国語訳の書名は『大哉！盖世比』と『大亨—凯士毕』に訳した。Gatsby の発音と近い単語「盖世比」と「凯士毕」を使って訳した。だが、great は発音と近い単語を使わずに、「大哉」と「大亨」に訳した。また、1970 年に出版された *The Great Gatsby* は『大亨小傳』という書名に訳した。1990 年代以来、台湾の翻訳者たちはみんな『大亨小傳』をタイトルにした。

台湾では 1970 年に出版された *The Great Gatsby* を『大亨小傳』という書名に訳

図表 4、台湾における主な翻訳版

書名	翻訳者	出版社	出版年
『永恒之恋』	黄　淑慎	九龍人人出版社	1954 年
『大哉！盖世比』	王潤华、淡莹	中華書店	1969 年
『大亨小傳』	高　克毅	正中書局	1970 年
『大亨—凯士毕』	丁　士奇	正中書局	1971 年
『大亨小傳』	喬　志高	桂冠圖書股份有限公司	1994 年
『大亨小傳』	黄　淑慎	正中書局股份有限公司	2001 年
『大亨小傳』	邱　淑娟	晨星出版有限公司	2002 年
『大亨小傳』	李　佳纯	商周出版社有限公司	2010 年
『大亨小傳』	徐　之野	新經典圖文傳播有限公司	2012 年
『大亨小傳』	王　聖棻	好讀出版有限公司	2012 年
『大亨小傳』	汪　　芃	遠流出版事業股份有限公司	2012 年

出典：http://www.eslite.com/Search_BW.aspx?query= 大亨小傳により作成

した。1990 年代以来、台湾の翻訳者たちはみんな『大亨小傳』をタイトルにした。台湾訳の *The Great Gatsby* は日本訳や中国本土訳と違う。主人公の名前は出ていないし、great も訳さない。その「亨」、「傳」の意味は何か。辞書を見てみょう。

1）『現代漢語大辞典』では、①通达、顺利。～通。～运（旧时指命运亨通太平盛世）。～衢（四通八达的大道）。②姓という二つの意味がある。大亨は力やカネを持っているビジネスマン、ヤクザなどの意味がある。

2）『漢英大辞典』によると、① prosperous、go smoothly。② big shot、bigwig、magnate という意味である。

3）『クラウン中日辞典』では、地方や業界の有力者、ボスという日本語の意味である。

その以上からみると、台湾の翻訳者たちは Gatsby は地位やカネを持っている「大亨」だと認めた。中国では「傳」とは優れた人が亡くなった後に歴史家はその人に関する物語を記録する書物である。だが、そんな「大亨」的な人に関するストーリは伝記や伝説などの言葉を使わずに「小傳」という軽蔑的な言葉を使って訳した。タイトルの中の「大」と「小」は反対的な意味の単語である。「大亨」と呼ばれた Gatsby は「小傳」だけ残っている。つまり、台湾の翻訳者たちはアメリカ社会を客観的に考えながら、Gatsby の表と裏を分けて評価した。表面的には地位やお金を持っている「大亨」

であるが、内面的には本当に優秀な人ではない、Gatsby に対する皮肉的な評価をした。また、1950 年代の台湾とアメリカは友好関係があり、文学作品を含め、たくさんのアメリカモノを台湾に輸入した。人々はそれらのモノの影響を与えられ、アメリカ文化に憧れた。そして、1970 年代からアメリカ大統領は中国に訪問し、台湾とアメリカの外交関係は悪化した。それから、1970 年代から、台湾社会は豊かとなり、アメリカに留学する人も増えてきた、アメリカに対する理解はもっと確実した。そのため、訳者はアメリカという国は主人公のギャツビーと同じく、両面がもっていると認識しながら、小説のタイトルは『大亨小傳』と訳した。

中国語訳版をまとめる。内陸における翻訳は「了不起的」という様々な意味が含まれている単語に訳した。台湾の訳版は小説主人公「Gatsby」の表と裏を分けて評価し、タイトルも表と裏の評価に応じて訳された。

5. まとめ

本稿では、20 世紀アメリカ文学における代表的な作品である *The Great Gatsby* を取り上げて考察し、タイトルの中にある great の翻訳について分析した。日本語においては、great は非常に訳しにくい単語であり、一つの単語に当てはめられない。また、現在の日本社会ではアメリカ文化が普及し、多くの人々は英語教育を受けた。そして、現代社会ではカタカナ語が幅を利かせている。そのため、great を見たら、この単語の意味は多少理解できるようになった。だから、「グレート」は「偉大な」、「華麗なる」などの意味も含まれている単語だと考える。

中国語の訳は内陸版と台湾版を分けて分析した。まず、中国語ではカタカナがないので、漢字でしか訳せない。内陸においては、「了不起的」という単語を使って訳された。「了不起的」は「偉大な」、「特別な」、「感心する」、「敬服する」などの意味が含まれている単語である。高度成長が続いてきた中国内陸では、経済水準が急上昇した。人々の収入が増えるにつれ、拝金主義が横行し、カネを基準にしか物事をみなくなるという現象は深刻になってきた。訳者は当時のアメリカの贅沢生活、またはギャツビーのような金持ちに憧れているのではないかと考えられる。一方、台湾では高度成長期が終わり、訳者は冷静に当時のアメリカ社会を観察でき、ギャツビーは両面を持っている人間と認識し、翻訳もその両面に応じて訳された。また、多くの台湾の訳者たちはアメリカに留学した経験があり、アメリカに対する評価はさらに客観的である。

今後執筆する修士論文において、great は本文の中でどう訳されたのか、また、日本語訳と中国語訳の違いなどについても分析していきたい。

6. 参考文献

＜和書＞

1. フィッツジェラルド（2009）小川高義訳『グレート・ギャッツビー』光文社文庫
2. フィッツジェラルド（2010）野崎孝訳『グレート・ギャツビー』新潮文庫
3. フィッツジェラルド（2014）村上春樹訳『グレート・ギャツビー』中央公論新社
4. 野崎孝（1972）『フィッツジェラルド　20 世紀英米文学案内』研究社出版
5. アンドルー・ターンブル著　永岡定夫、坪井清彦訳（1988）『完訳フィッツジェラルド伝』こびあん書房
6. ロバート・L・ゲイル著　前田絢子訳（2010）『F・S・フィッツジェラルド事典』雄松堂出版
7. 野間正二（2008）『グレート・ギャツビーの読み方 』創元社
8. 宮脇俊文（2013）『グレート・ギャツビーの世界 ダークブルーの夢』青土社
9. 小野俊太郎（2013）『ギャツビーがグレートな理由』彩流社
10. 伊藤詔子、新田玲子（2012）『カウンターナラティヴから語るアメリカ文学』音羽書房鶴見書店
11. 津神久三（1998）『ニューヨーク・ジャズエイジ：芸術都市にみる狂騒の 10 年』中央公論社
12. 笹田直人、堀真理子、外岡尚美（2002）『概説アメリカ文化史』ミネルヴァ書房
13. 岡本勝（1996）『禁酒法：「酒のない社会」の実験』講談社
14. 岡本勝（1994）『アメリカ禁酒運動の軌跡：植民地時代から全国禁酒法まで』ミネルヴァ書房
15. メアリー・ベス・ノートン（1996）『アメリカの歴史』三省堂
16. 中野耕太郎（2013）『戦争のるつぼ：第一次世界大戦とアメリカニズム』人文書院
17. ジェームズ・ジョル著　池田清訳（2007）『第一次世界大戦の起原』みすず書房
18. 柳父章（1982）『翻訳語成立事情』岩波新書
19. 鳥飼 玖美子（2013）『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房
20. 大橋 健三郎（1980）『文学とアメリカ Ⅰ：大橋健三郎先生還暦記念論文集』南雲堂

＜洋書＞

1. *English-Chinese Dictionary* Collins　1990
2. F. Scott Fitzgerald　*The Great Gatsby* IBC 2012
3. ArthurMizener（1963）*F.Scott Fitzgerald –A Collection of Critical Essays* SpectrumBook

＜中国語書＞
1.《現代漢語大辞典　第二版》(1995)　上海交通大学出版社
2.《漢英大辞典　第二版》(1999)　上海交通大学出版社
3.《伟大的盖茨比》(2012)　译林出版社

＜論文＞
1. 吉岡泉美「F. Scott Fitzgerald“*The Great Gatsby*”における野崎孝、村上春樹、小川高義による日本語訳比較分析――小川高義の翻訳ストラテジーにおける新規性に着目して」(2012)『湘南藤沢学会・Open Research Forum 2012』
2. 兼定和憲（1983)「フィッツジェラルド研究：ジャズ・エイジと彼の文学」『福井工業大学研究紀要』105-111 頁
3. 内田勉（2009)「『*The Great Gatsby*』作品成立過程の考察」『学習院大学文学部研究年報』113-135 頁
4. 高橋美知子（2014)「F. Scott Fitzgerald の作品における人種表象」『福岡大学研究部論集』107-113 頁

＜参考辞書・辞典＞
1.『現代英英辞典　第 4 版』(1993) 開拓社
2.『ジーニアス英和大辞典』(2000) 大修館書店
3.『広辞苑　第五版』(2008) 岩波書店
4.『クラウン中日辞典』(2000) 三省堂

2014年秋学期　博士後期課程（博士）修了論文

2015. 3. 31

	専　攻	学位授与者	博士論文題目	指導教授
1	開発問題専攻	車　頴	中日通訳活動におけるリスクベース分析	塚本　慶一

2014年秋学期　博士前期課程（修士）修了論文

2015. 3. 31

	申請者氏名	リサーチペーパー	修士論文題目	指導教授
1	鄶　　春蕾		日本企業の経営理念と人材マネジメントの関係－中国企業への啓示	田中　信弘
2	劉　　麗丹		中国（上海）自由貿易試験区の意義と課題	馬田　啓一
3	揚　　佳		日中両言語の語彙研究－四字熟語を中心に	玉村　禎郎
4	李　　威		日中漢字の字形について	鄭　　英淑
5	劉　　暁言		二字からなる漢字語の語形と語義	玉村　禎郎
6	清水　君恵		目隠し・耳栓の装着および室内環境が安静時の瞳孔観察によるストレスに及ぼす影響 ～心拍変動のスペクトル解析を用いた評価～	出嶋　靖志
7	王　　梓		日本語外来語の受容性に関する一考察 ―第６版『現代漢語辞典』に新たに収録された語彙を中心に	塚本　慶一
8	高橋　裕子		旧長崎唐通事が明治初期に果たした役割 ―マリア・ルス号事件を通じて―	塚本　　尋

2015年春学期　博士前期課程（修士）修了論文

2015. 9. 30

	学位授与者	リサーチペーパー	修士論文題目	指導教授
1	張　　寧		中国基層政府の研究 ―都市化過程における郷・鎮政府の改革―	劉　　迪
2	曾　　蓁	※	日本語における舌打ち「ﾁｯ」の表現について	金田一　秀穂
3	程　　蕾		日本語学習者における「じゃないですか」の使用実態について	嵐　　洋子
4	連　　斯哲		日本語表記の研究―『東京開化繁昌誌』を中心に―	玉村　禎郎
5	羅　　筱鈺		中国武侠小説の翻訳可能性と翻訳方略に関する一考察 ―金庸著『天龍八部』を実例に―	塚本　　尋
6	李　　余鑫		中島敦『李陵』とその中国語への訳出 ―五種類の中国語訳版に対する比較分析を中心に―	塚本　　尋
7	路　　達明		日中外交分野における通訳者の役割 ―第一、二世代の日中通訳者の体験談を中心に―	塚本　慶一

※リサーチペーパー

博 士 学 位 論 文

内容の要旨および審査結果の要旨

氏　　名	**車　　穎**
学位の種類	博士（学術）
学位記番号	博甲国第 34 号
学位授与の日付	平成 27 年 3 月 31 日
学位授与の要件	学位規程第 5 条
学位論文の題目	**中日通訳活動におけるリスクベース分析**
審査委員　主査	杏林大学外国語学部教授　塚本　尋
副査	杏林大学外国語学部教授　塚本慶一
副査	天津外国語大学教授　修　剛

要　旨

車穎氏より提出された博士学位請求論文「中日通訳活動におけるリスクベース分析」は、欧米の通訳理論研究の最新成果を踏まえて、同時通訳を中心に、中日・日中の事例を考察し、リスクベース分析に基づく評価体系の構築を提案しようとするものである。

【論文の構成】

本論文の構成は、論理的で分かりやすく、目次 3 ページ、本文 106 ページ、付表と参考資料 91 ページ、 計 200 ページでまとめられている。論文は次の各章により構成されている。

序章
　0－1　問題意識
　0－2　同時通訳プロセス・モデルに関する仮説の提示
　0－3　研究方法
第 1 章　通訳に関する先行研究
　1－1　中国語における「翻译」とは
　1－2　「通訳」と「翻訳」
　1－3　通訳――逐次通訳と同時通訳

１－４　　同時通訳
１－４－１　パターン
１－４－２　優位性
１－４－３　設備の使用
１－４－４　通訳の品質基準
１－４－５　同時通訳者が備える資質
１－４－６　理論研究
１－４－６－１　西欧研究文献に関する統計
１－４－６－２　中日両国における同時通訳研究文献に関する統計
１－４－６－３　中国における同時通訳研究の発展と方向性
１－４－６－３－１　中国同時通訳研究が注目している西欧通訳理論
１－４－６－３－２「省略」について
１－４－６－３－３　通訳者の記憶能力
１－４－６－３－４「ミス」について
１－４－６－３－５　通訳者発音のコントロール
１－４－６－３－６　通訳者の能力評価について
１－４－６－３－７　中国における同時通訳研究の特徴と問題点
第２章「リスクベース」分析の考え方
２－１「利益関係」の考え方
２－２「リスク」――言語面での意味合い
２－３「リスク」――経済学・経営学における概念
２－４　リスクの洗い出し
第３章　通訳活動におけるリスクの研究
３－１　　通訳形式におけるリスク―逐次通訳と同時通訳を比較
３－２　　非言語的情報におけるリスク
３－２－１　なまりが分かりにくい
３－２－２　メリハリがつかない
３－２－３　話速の速さ
３－３　　言語的情報におけるリスク
３－３－１　語彙とそのロジック
３－３－２　センテンスとそのロジック
３－３－２－１「主語＋多数（目的語＋述語）」の構造
３－３－２－２　主語前の修飾内容の情報量が大きい場合
３－３－２－３　情報量が少ない・複雑な述語部分
３－３－３　段落とそのロジック
３－４　　発言者のミスによるリスク

第４章　同時通訳事例（日→中）に対するリスクベース分析
４－１　研究事例の選別および説明
４－２　冒頭の３句における「追いかけ」
４－３　ミスによるリスク
４－３－１　リスクベース分析―「ミクロ」角度
４－３－２　リスクベース分析―「マクロ」角度
４－４　単一方向同時通訳活動における「ミス」リスク
４－５　ストラテジーのオペレーションリスク
４－６　ＳＬテクストに対する「理解の乖離」
４－６－１　自己モニタリング低下によるリスク
４－６－２　漢字語彙によるリスク
４－６－３　ロジック関係の乖離によるリスク
おわりに
参考文献
付表
添付資料

【論文の概要】

本論文は、中国における中日通訳研究に立脚し、日本や欧米において主流をなす研究を分析し、中日通訳に対する研究の現状と課題を論じたうえで、「リスク」をベースにした評価方法の構築を視野にいれて、通訳における「リスク」の分析をしたものである。

【各章の概要】

序章では、中日通訳活動におけるリスクベース分析を研究する問題意識について説明している。欧米の諸学説や理論研究や中日両国における通訳研究文献を渉猟し研究する中で、筆者は、通訳活動は様々なリスクを伴う知的活動であると認識するに至り、さらに、リスクの角度からの分析・研究が未踏の分野であると気づくに至った、と述べている。

第１章において、通訳に関する先行研究をまとめている。通訳翻訳の概念についての欧米、日本、中国の諸観点を紹介し、同時通訳についてはその優位性や設備の状況、通訳者に求められる資質などにも言及している。さらにここ十数年の研究成果について、現在の中国における同時通訳研究の特徴と問題点を指摘している。

第２章では、本研究で提唱する「リスクベース分析」の基本的な考え方について説明し、この観点から通訳活動の評価やその改善について方向性を提示している。通訳活動は通訳者のみならず、会議の主催者、発言者、出席者（聞き手）、機械の設置・

修理業者、通訳者を手配するエージェント、マスメディアなど多くのセグメントを包括する。通訳活動は通訳者を主体とし、多くの利益関係者を取り巻く活動である、とみる。各セグメントの利益関係にマイナスの影響をもたらす「リスク」に係る分析を「リスクベース分析」と呼ぶ、としている。通訳活動に対して、リスクという概念の確立、リスクの洗い出し、更に定量的または定性的な分析、通訳者のプロファイル作成、通訳者のリスクに対する選好などについて継続して研究する価値があると指摘している。

第３章では、第２章で提示したリスクの概念に基づき、通訳活動におけるリスクの所在について論じている。いくつかの代表的なリスクの種類に絞って提示し、この観点からの通訳活動の分析の有用性を指摘している。「同時通訳形式」「非言語的情報」「言語的情報」「発言者のミス」などの状況下でのリスクについて実例をあげて説明し、リスクの所在をはっきりと認識することが重要で、それは通訳者の責任のみならず、通訳活動を取り巻く多くの利益関係者にも理解してもらう必要がある点を力説している。

第４章では、東日本大震災発生時の状況を伝えるNHKのニュース報道を、中国中央テレビ局（CCTV）が同時通訳を介して中国国内向けに生中継した際の通訳事例に対して、実際にリスクベース分析を実施している。さまざまなリスクの所在を具体的に洗い出し、それぞれのリスクに対する処理の方略が通訳者のパフォーマンス向上に役立つと論じている。

今後の課題については、リスクの所在をより深く、より広く探求する必要があること。そして、このリスクベース分析を通じて、通訳者のパフォーマンスをより公正に評価・監査・ランク付けできる「リスクベース評価体系」の構築へと発展させたいとしている。

【評価】

本論文は次の五点で評価できると考える。

１、論文の題目が明確かつ適切であり、課題意識が鮮明で、独自の研究視点を持ち、中日通訳研究に資するものである。中日・日中の通訳翻訳研究はこれまでもそれなりの成果があったが、欧米の最新の通訳翻訳理論を応用しつつ、中日・日中の事例を考察して、通訳ひいては同時通訳を研究しているものは少なく、リスクの概念を導入して研究したものはまだ見当たらない。通訳活動をリスクマネジメントの観点からの分析するという研究は、従来の中日通訳研究の理論を補完して、中日・日中同時通訳研究の一空白を埋めるものといえる。

２、先行研究の把握が適切で、収集した資料が豊富である。中国の通訳翻訳研究、

欧米の通訳翻訳研究の資料を最大限に収集し読み込んで纏めている。（第 2 章）
　音声資料は、難度の高い事例を使い、丁寧に整理して分析に備えている。A：香港・フェニックステレビの時事弁論会 2013. 9.14「2013 探索中日大智慧（日中関係の大きな知恵を求めて）」の音声書き起こし資料（添付資料③ 68 頁分） B: 中国中央テレビ局（CCTV）の報道：「東日本大震災発生後の NHK ニュースを同時通訳付きで生中継したもの」の音声書き起こし資料（添付資料④ 17 頁分）

　3、論述にあたり、図による視覚化の工夫がなされている。同時通訳の分析の大前提としての「同時通訳のイメージ図」を、Robin Setton が提唱した同時通訳モデルを参考にしながら筆者独自のイメージ図にまとめている（p2 図 1）。通訳活動におけるリスク所在を論述する際に、通訳サイクルを示した図（p43 図 9、p50 図 10）を提示している。いずれの図も綿密に作成されたもので、巻末に拡大図をつけている。

　4、研究方法・論文の構成のいずれも理に適っている。先行研究を正確にとらえ、その理論を応用して、しっかりとした実証研究をしている。データ、例文の選択も適切で、中日・日中の同時通訳の事例も、中国のトップレベルの通訳者のパフォーマンスの中から厳選した音声資料を書き起こし、定量、定性的な分析を通じて考察と分析を行っている。

　5、結論は信憑性が高く、中日・日中の同時通訳研究と実践に大いに参考になる。研究はリスクの概念を導入したうえで、具体的な事例を分析し、リスクベース評価の必要性を力説し、その体系の構築を提案しようとしている。考察と分析はいずれも成功していると思われる。

　以上の五点をもって、審査員一同はこの研究の学術的価値を認め、質の高い博士論文であると判断する。口頭発表ならびに口頭試問でも明晰に論旨を述べ、質問には的確に答えて、時間をかけて丹念に作成された論文であることが確認できた。本論文は博士（学術）の学位授与要件を十分に満たしていると判断する。
　筆者の車穎氏は、厳しい実践訓練やインターンシップでの実地訓練・研修を経て、通訳者としての実感を持ったうえで、研究に取り組んでいる点も特筆に値する。今後の研鑽・研究によって更なる成果を出すよう期待するものである。

RONBUN SHU（XⅢ）

CONTENTS

Articles

The role that the former Nagasaki To-tsuji achieved in early Meiji period
— Through the Maria Luz Incident —
……Yuko Takahashi

A Study on the Translations of *The Great Gatsby*
— Comparing the Titles in English, Japanese and Chinese
……Zhangxi Tang

杏林大学大学院国際協力研究科論文集　第13号
発行年月日　２０１６年３月３１日
編集発行者　杏林大学大学院国際協力研究科長　大川　昌利
東京都八王子市宮下町４７６
電話　０４２（６９１）００１１
印　　刷　株式会社 コームラ
〒501－2517　岐阜市三輪ぷりんとぴあ３
Tel ０５８－２２９－５８５８
Fax ０５８－２２９－６００１